

V 調査のまとめ

1. 瓦堂について

今回の調査において中世の溝からの出土ではあったが、平安時代に位置づけられる瓦堂の破片が検出され、在地社会における古代仏教信仰のひろがりを考える上で貴重な資料を得ることができた。

瓦堂は、瓦塔と同じく木造建築を模して造られた瓦製品で、「瓦金堂」とも呼ばれている。入母屋造り屋根の「堂」形のもを指し、正面が柱間3間で入口を開け、妻側を柱間2間組物3間とするものが多い（高崎1990）。全国で200箇所以上の出土地が知られている瓦塔に比べ、出土例がきわめて少なく、その分布も関東地方に集中したあり方を示している。

管見にふれた瓦堂の出土例は、宮城県1例、茨城県1例、栃木県1例、群馬県4例、埼玉県8例、千葉県5例、出土地不明1例の合計21例が確認されたにすぎない（註1）。このうち全体の形状の判明するものは、わずかに美里町東山遺跡例（横川他1980、今泉1993）と千葉県谷津遺跡例（相京・池田1986）の2例が知られるだけである。屋蓋部の破片がほとんどで、細部の特徴について不明な点が多い。また、瓦堂に関する論考も形態的特徴と性格について分析を行った高崎光司氏の研究があるにすぎない（高崎1990）。

最近、東山遺跡出土の瓦塔・瓦堂の解体修復作業の過程において、当初単層の堂に復元されていた瓦堂が再検討の結果、重層の堂であることが明らかとなった（今泉1993）。管見では、鳩山町柳原A遺跡（渡辺他1991）、群馬県丸山北窯跡（太田市1996）から出土した瓦堂の破片の中にも重層と考えられる部位が含まれていることから、重層構造のものが基本形であった可能性も十分考えられ、今まで単層に復元されていた資料の見直しの必要が生じている。

本稿では、従前の瓦塔研究の成果を踏まえ、当遺跡から出土した瓦堂の編年的位置づけを中心に検討を行いたい。

まず、出土状況について簡単にふれておく。前述し

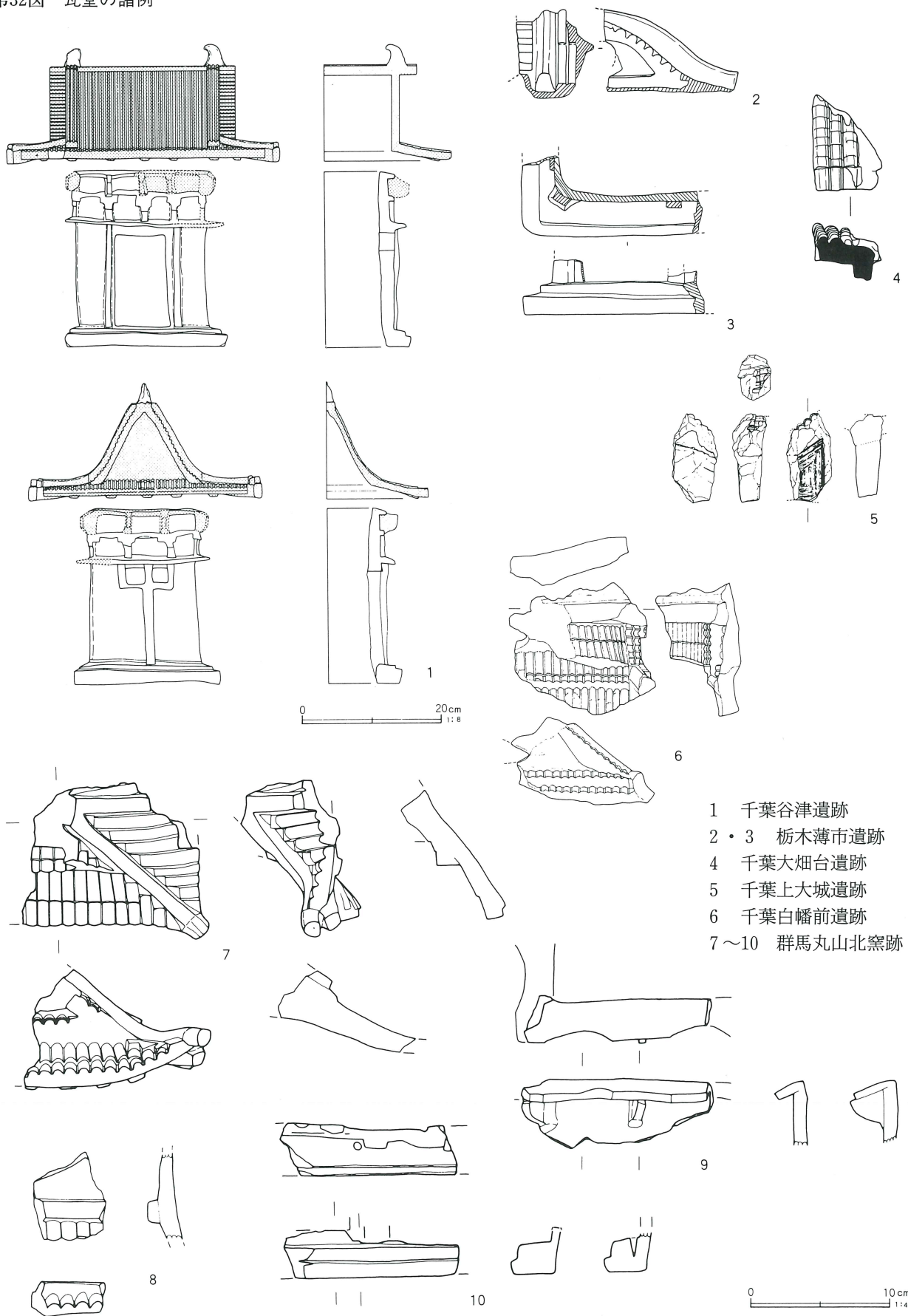
たように本瓦堂は、13世紀後半から14世紀前半頃の中世陶器とともに溝の覆土中から出土しており、直接遺構に伴うものではなく、流れ込みと考えられる。従って、出土状況から本瓦堂がどのような場所に安置され、仏教信仰の中でどのような使われ方をしていたのかを具体的に復元することは困難である。しかし、周辺には8世紀後半から9世紀前半を中心とする竪穴住居跡群が所在していることから、付近に「仏堂」的な施設が建立されていたことを想定することはさほど無理のないように思われる。いずれにせよ、結論は今後の調査の進展に期待するほかない。

次に、本文中でもふれているが本瓦堂の形態的特徴について説明する。

出土した瓦堂は入母屋造りの屋蓋部の破片で破風の部分に相当し、大棟や軒先など他の部位を欠損する。屋蓋部には通有の瓦塔と同じく半截竹管状工具の押し引きによって丸瓦が表現されている。注目されるのは平側の地葺きと妻側の掛瓦で幅の異なる2種類の工具を用いて丸瓦を表現している点である。つまり、地葺きの丸瓦は幅8mm、深さ3mmを測り、遺存部に継ぎ目が1箇所認められるのに対して、掛瓦は幅5mm、深さ2mmの幅の狭い工具を用いている。さらに、瓦堂の屋蓋表現に多くみられる鋸葺屋根を模した破風下の二段の地葺きが、本瓦堂では妻側の遺存部に明確でないことも特徴のひとつとして挙げられる。

破風の中央には三角形の透孔が切り抜かれ、その縁に細線による線刻が施されている。透孔の形態は美里町富士山台遺跡例（横川1980）のような不整三角形とは異なり、比較的形の整ったものである。これは単に焼成における空気抜きを目的とした造作でなく、木造建築の破風を写實的に表現しようとしたものと推定される。降棟は幅1.2cmの断面矩形を呈する隆帯状に作られ、端部を欠損していた。また、隅棟はヘラによって削り出された基部をわずかに残し、本来隆帯状に作

第32図 瓦堂の諸例



- 1 千葉谷津遺跡
- 2・3 栃木薄市遺跡
- 4 千葉大畑台遺跡
- 5 千葉上大城遺跡
- 6 千葉白幡前遺跡
- 7~10 群馬丸山北窯跡

られていたことが分かる。内面は丹念にヘラケズリを施している。軒先部分を欠損しているため、残念ながら垂木等の表現は不明である。

本体部分の成形は基本的に粘土板によって形作られ、それに粘土紐を貼付して妻側の掛瓦や降棟、隅棟等の細部を作り出している。土師質焼成で、橙褐色をした柔らかな焼き上がりである。胎土には土師器と同様に多量の角閃石、赤色粒子等が含まれている。

このように本瓦堂は、最近の研究で編年基準として着目されている斗拱部の変化(松本 1983、高崎 1989)や軒裏垂木表現(池田 1995・1996・1998)などの細部の特徴が不明瞭であるため、その年代を俄かに推断することは至難である。翻って本瓦堂の特徴を列記すれば、瓦や降棟などの表現が全体に丁寧で、特に破風の中央に三角形の透孔を施し、木造建築を写實的に表現しようとした意図を読み取ることができる。さらに、焼成は土師質で、比較的硬質に焼き上げられている点などが挙げられる。

そこで、このような特徴を示す本瓦堂が、瓦塔全体の変遷過程の中でいかなる段階に位置づけられるのか知るために、その大略について概観しておきたい。

まず、瓦塔の系譜関係については、中国の陶屋の影響があるとの説(松本 1984)もあるが明確ではなく、国内において木造の堂・塔や木製の厨子などを模倣して成立したとする説が有力である(上村 1991)。瓦塔の出現は7世紀後半に位置づけられる滋賀県衣川廃寺例(藤沢 1975)が最も古い例であるが、この時期のものは他に見当たらず、8世紀代になり東海、北陸、関東等の各地で出土例が増加している。そして8世紀末から9世紀前半までの間に最盛期を迎え、9世紀後半には急速に衰退していったものと考えられている。

一方、瓦堂の出現形態については必ずしも明確ではないが、現状における出土例から考えると瓦塔よりも遅れて出現し、瓦塔の最盛期にあたる8世紀末から9世紀前半にかけて集中的に作られたと考えられている。基本的には瓦塔とセットになって建物の内部に納められ、小伽藍的空間を形成していたものと想定され

る(高崎 1990)。

さて、管見にのぼった瓦堂について概観してみるとその多くが土師質焼成のものに限られており、瓦塔の変遷過程の中では須恵質焼成のものに後出する段階に位置づけられる。また、屋蓋部の瓦表現手法に注目すると、池田敏宏氏の分類による「幅広工具押し引きB手法」と「幅狭工具押し引きA手法」の2種類に大きく分けることができる(池田 1995)。

前者の例としては狭山市宮地遺跡例(狭山市 1986)、宮城県多賀城廃寺例(桑原・高野 1990)、千葉県白幡前遺跡例(大野 1991)、群馬県丸山北窯跡例等が知られる。全体に鋸葺屋根を写實的に表し、瓦の継ぎ目が多節のものが多く、古相を示している。

一方、瓦堂出土例の大半が後者の「幅狭工具押し引きA手法」によって丸瓦を表現しており、その代表例として県内では美里町東山遺跡例、同富士山台遺跡例、日高市若宮遺跡例(中平 1983)等が認められ、本瓦堂もこの分類に含まれる。また、周辺では栃木県薄市遺跡例(秋本 1988)、千葉県谷津遺跡例等が類例として挙げられる。これらの一群は高崎氏の瓦塔編年においてⅢ期の指標とされた、簡略化した組物表現や土師質焼成等の特徴を示すものがほとんどで、8世紀末から9世紀前葉を中心とした年代に位置づけられている(高崎 1989)。

このように本瓦堂は、屋蓋部の瓦表現が池田氏の分類による「幅狭工具押し引きA手法」によって表現され、土師質に焼かれていることから東山遺跡出土瓦堂に類似した特徴が認められる。東山遺跡例の年代は共伴した須恵器等の年代観から8世紀末もしくは9世紀初頭に比定されており、本瓦堂も近接した時期の所産と捉えておきたい。

以上、瓦表現等を手がかりとして本瓦堂の編年的位置づけについて検討してきたが、資料的な制約もあり、その性格にまで言及することはできなかつた。今後は集落内部における仏教信仰の存在形態の解明が大きな課題として残されている。

2. 北武蔵出土瓦塔の様相

埼玉県における瓦塔出土遺跡は、昭和48年の石村喜英氏による集成では22遺跡を数えるにすぎなかったが(石村 1973a)、昭和51年に美里町東山遺跡から良好な状態で瓦塔と瓦堂が発見されたのをはじめとして、瓦塔焼成土壌の検出された鳩山町柳原A遺跡、丘陵部における瓦塔の実態が明らかにされた滑川町中尾・用土庵B遺跡(植木 1997)など重要な調査例が相次いだ。そして、平成6年の埼玉県立歴史資料館による集成では実に55遺跡に達し(駒宮・栗岡 1994)、群馬県、千葉県と並んで関東地方では瓦塔の数多く出土する地域のひとつであることが明らかにされた。

さて、今回の瓦塔出土遺跡の集成では、中・近世の所産と考えられる資料も含め、現在65遺跡が確認された。この数字は全国における瓦塔出土例の約4分の1にあたり、本県がいかに濃密な分布を示しているかが分かる。このうち奈良・平安時代のものは56例を数えるが、遺跡の性格が判明しているものに限定するとその数は47例となる。その内訳は寺院跡12例、集落跡21例、窯跡13例、その他(祭祀遺跡・塚)1例を数える。従前は古瓦散布地としての寺院跡などから採集される場合がほとんどであったが、発掘調査の進展に伴い集落跡からの出土例が急増している。また、他地域に比べ瓦塔生産遺跡である須恵器窯跡からの出土例の多い点が地域的な特徴として挙げられる。

埼玉県内には北から末野窯跡群、南比企窯跡群、東金子窯跡群の三大窯跡群が分布し、各窯跡群から瓦塔の出土例が知られている。中でも南比企窯跡群からは数多くの瓦塔が出土しており、8世紀前半から9世紀までの長期間にわたって他の仏具模倣須恵器とともに盛んに生産を行っている(坂詰 1964)。また、末野窯跡群でも末野遺跡から須恵質と土師質に焼かれた瓦塔の破片が灰原から出土しており、瓦塔生産の一端が明らかにされている(赤熊 1999)。さらに、東金子窯跡群でも窯跡からの出土例は少ないが、周辺の狭山市東八木窯跡(小淵 1983)、同宮地遺跡、入間市下谷ヶ戸遺跡(入間市史編さん室 1986)、同森坂遺跡(書上

1996)、所沢市お伊勢山遺跡(市毛他 1990)などで瓦塔が出土している。

次に、瓦塔を出土した遺跡の分布について概観してみると、児玉、大里、比企、入間などの県北・県中部に集中し、県東・県南部、秩父地方などに少ない傾向が認められ、その分布が古代の主要幹道沿いや古代寺院の分布と密接な関係にあることが既に指摘されている(石村 1973a)。しかし、最近の発掘調査の増加に伴い、今まで分布の稀薄であった地域からも着実に出土例が増えており、本遺跡の瓦堂の発見は埼玉地域周辺では初見である。

県内から出土した瓦塔の中では、8世紀前葉から中葉に位置づけられる坂戸市勝呂廃寺例(石村 1987、坂戸市教委 1992)や山岳信仰との関連の深い都幾川村・多武峯遺跡例(宮 1993)が最も古い例である。この段階は出土例の少なさからみても「郡寺」とされるような大規模寺院などのきわめて限定された場所に造立されていたものと推定される。

8世紀後半には熊谷市西別府廃寺(吉野 1994)、児玉町寺山廃寺(高橋他 1982)、美里町大仏廃寺(宮瀧 1992)等のように瓦葺きの堂宇を備えた寺院から数多くの瓦塔が出土している点は注目されよう。これは木造瓦葺きの大型塔と同様の宗教的役割を瓦塔が果たしていたことを示唆するものである。また、須恵質の瓦塔を出土した川越市川越城本丸跡例(岡田 1993)から、遅くともこの時期には集落の内部にも瓦塔が造立され始めたものと考えて良いであろう。同時に、この頃が南比企窯跡群を中心とした瓦塔生産の本格化した時期でもある。その製品は周辺の比企、入間地域だけでなく、児玉地域や南武蔵まで広い範囲に供給されていることが明らかにされている(註2)。

8世紀末から9世紀前半にかけて瓦葺きの堂塔を造立するような寺院に衰退化傾向がみられる反面、平野部の遺跡だけでなく、今まで開発がおよばなかった丘陵地などを含めて、瓦塔を出土する遺跡が俄かに急増する(鈴木 1987)。東山遺跡の例からすれば、この時

期に丘陵部の集落を含め各地で、集落内に瓦塔や瓦堂を納めた小規模な建物が建立され、仏教信仰が広範に普及浸透したのではなかろうか。さらに、瓦塔を出土した集落の様相も本遺跡のように古墳時代から律令期まで継続して営まれた伝統的集落や、新たに集落が形成された新開集落など多様なあり方を示しており、大きな転換期として位置づけられる。こうした瓦塔を含む、小塔の造立行為の歴史的背景について宮瀧交二氏は、律令体制の解体過程の中で山野の開拓を主導し、積極的な経済活動を行った富豪層が、私的経済活動を支える精神的な拠り所として造立したものであると指摘する（宮瀧 1995）。

ところで、瓦塔造立の意義については墳墓標識説をはじめとして諸説（石村 1979・1984）があるが、最近の調査例の増加により堂宇内安置説が有力になりつつある（藤沢 1975、松本 1983）。県内では本来瓦塔が安置されていた場所や仏教信仰の中でどのような使われ方をしたのかを具体的に復元できるような良好な調査例に恵まれていないが、東山遺跡では2間×1間の掘立柱建物跡の周辺から瓦塔と瓦堂の破片が集中して出土したことから草堂内に1塔1堂がセットになって納められていたものと想定されている（横川他 1980）。また、日高市高岡廃寺では木造瓦葺きの大型塔に代わる寺院の塔として瓦塔が伽藍内に造立されていたと、代用塔説を示唆する（大護他 1978）。さらに、坂戸市稲荷前遺跡では直径約10cmの小型瓦が多数出土したことから、集落内にこれらの小型瓦を葺いた、小堂もしくは小塔が実際に建立されていたものとしている（富田 1994、水口 1998）。その他に、この遺跡からは多角塔（堂）に復元される瓦塔の軸部が出土していることからやや想像をたくましくすれば、瓦葺きの小建物の中に経典や小金堂仏を納めた瓦塔が安置され、礼拝の対象となっていたのではなかろうか。

以上、埼玉県内における瓦塔出土遺跡の様相について瞥見してきた。今回の集成作業により65遺跡を数える数多くの瓦塔出土遺跡の存在が明らかとなった。この中には採集資料や伝承しか残されていないような遺

跡も数多く含まれているが、本稿で問題とした奈良・平安時代に限っても50箇所に近い出土地が知られ、その数の多さは予想以上であった。その一因として窯業生産の活発化が指摘されているが、本質的には瓦塔をはじめとする小塔の造立に具現化された、宗教行為を必要とした社会の実像の解明こそが急務であろう。

今後はこの集成作業の成果を生かして、他の仏教関連遺構・遺物との関連性なども視野に入れた上で、在地社会における古代仏教信仰のひろがりについて検討しなければならない。

なお、巻末に附編として「埼玉県内出土瓦塔地名表」、並びに引用・参考文献、瓦塔集成図を掲載した。

挿図の出典については各引用・参考文献に拠ったが、川越城本丸跡出土瓦塔に関しては、川越市立博物館学芸員 岡田賢治氏の御厚意により実測図の提供を受けた。文末ながら記して御礼申し上げます。

註

- (1) 管見にふれた瓦堂の出土例は以下のとおりである。
 - 宮城県多賀城市多賀城廃寺（桑原・高野1990）
 - 茨城県土浦市根鹿北遺跡（池田敏宏氏御教示）
 - 栃木県上三川町薄市遺跡（秋元1988）
 - 群馬県伊勢崎市内出土（高崎1990）
 - 太田市丸山北窯跡（太田市1996）
 - 桐生市内出土（高崎1990）
 - 境町十三宝塚遺跡（大江1992）
 - 埼玉県狭山市宮地遺跡（狭山市1986）
 - 日高市若宮遺跡（中平1983・1984）
 - 鳩山町柳原A遺跡（渡辺他1991）
 - 都幾川村多武峯遺跡（都幾川村1998）
 - 美里町東山遺跡（横川他1980、今泉1993）
 - 美里町富士山台遺跡（横川1980、高崎1990）
 - 岡部町藤の木遺跡（石村1962・1973）
 - 行田市馬場裏遺跡（本報告書）
 - 千葉県千葉市谷津遺跡（相京・池田1986）
 - 市原市南青野（孟地）遺跡（田所1993）
 - 木更津市大畑台遺跡（今泉・笹生1994）
 - 袖ヶ浦市上大城遺跡（笹生1994）
 - 八千代市白幡前遺跡（大野1991）
 - 出土地不明（帝室博物館1937、高崎1990）
- (2) 東京都東村山市多摩湖町出土瓦塔は南比企窯跡群で生産されたものであることが指摘されている（今泉他1997）。

附編 埼玉県内出土瓦塔地名表

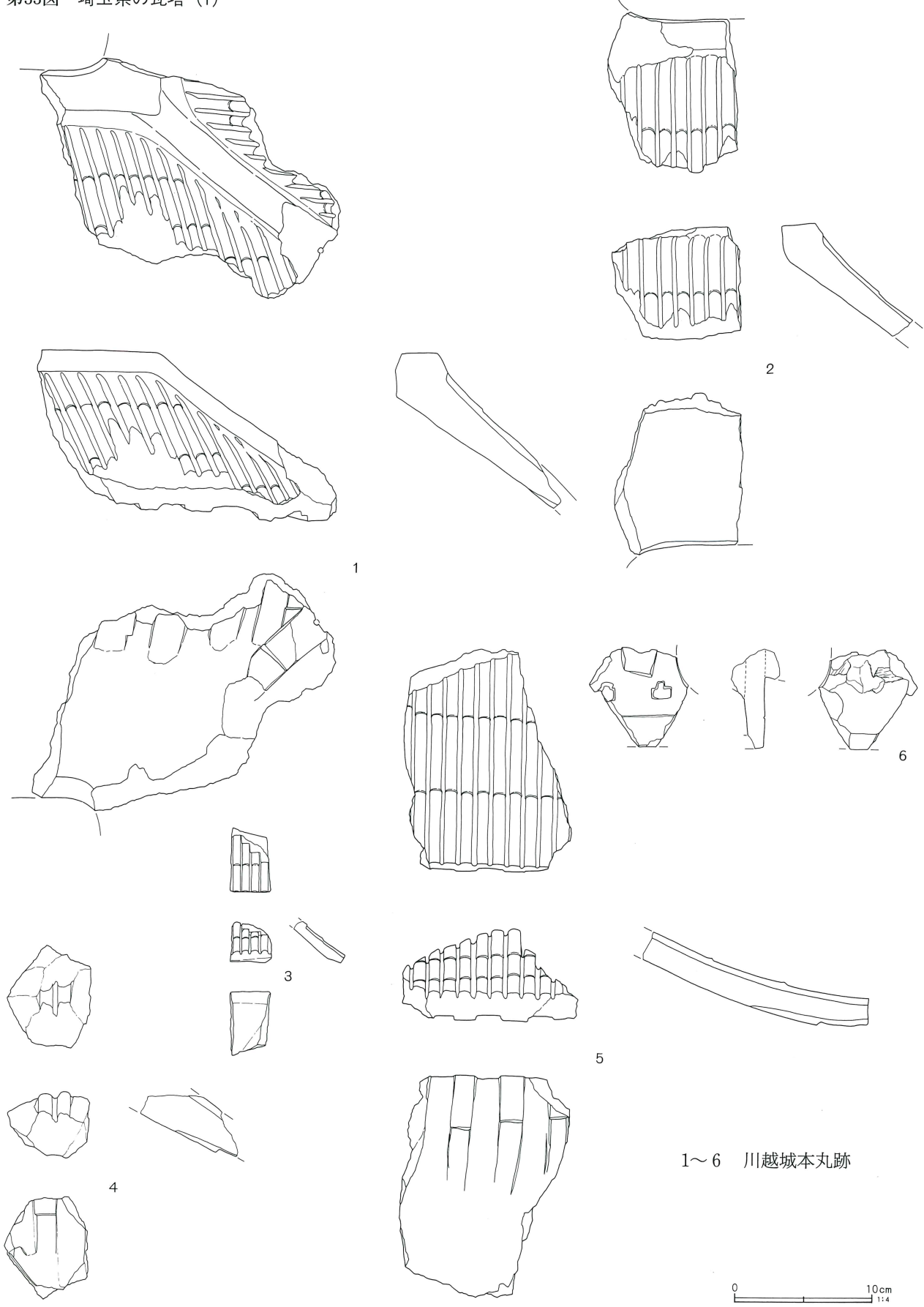
No.	遺跡名	所在地	性格	時代	出土部位	文献
1	上木崎遺跡	浦和市上木崎	集落	古代	屋蓋	柳田他1957
2	上木崎三丁目遺跡	浦和市上木崎三丁目	集落	古代	屋蓋	青木他1977
3	川越城本丸跡	川越市郭町	集落	古代	屋蓋・斗拱	岡田1993、駒宮・栗岡1994
4	鯨井新田出土	川越市吉田	—	古代	屋蓋	川越市1972
5	東下川原遺跡	川越市の場	集落	古代	斗拱	早川1995
6	お伊勢山遺跡	所沢市三ヶ島	集落	古代	屋蓋	市毛他1990、所沢市1990
7	東八木窯跡	狭山市笹井	窯	古代	屋蓋	小淵1983、狭山市1986
8	宮地遺跡	狭山市笹井	集落	古代	瓦堂屋蓋	狭山市1986
9	森坂遺跡	入間市上小谷田	集落	古代	請花	書上1996
10	下谷ヶ戸遺跡	入間市仏子	窯	古代	不明	入間市史編さん室1986
11	川崎遺跡	上福岡市川崎	集落	古代	屋蓋	小淵他1981
12	勝呂廃寺	坂戸市石井	寺院	古代	屋蓋・斗拱・軸	高崎1989、坂戸市教委1992
13	稲荷前遺跡	坂戸市竹之内	集落	古代	軸	富田1992・1994
14	三福寺遺跡	坂戸市三福寺	寺院	中世	屋蓋	駒宮・栗岡1994
15	三芳野出土	坂戸市旧三芳野付近	—	古代	屋蓋	石村1973a
16	坂戸市内出土	坂戸市内	—	古代	屋蓋	駒宮・栗岡1994
17	若宮遺跡(女影廃寺)	日高市女影	寺院	古代	瓦塔・瓦堂屋蓋・斗拱	高橋他1982、中平1983・1984a
18	姥田窯跡	日高市女影	窯	古代	屋蓋・軸	石村1973a、高橋他1982
19	台出土(上高岡窯跡?)	日高市台の上	窯	古代	屋蓋	石村1973a
20	高岡廃寺	日高市高岡	寺院	古代	屋蓋・露盤・基壇・軸	大護他1978、高橋他1982
21	大寺廃寺	日高市山根	寺院	古代	屋蓋・基壇	中平1984b
22	妙昌寺	東松山市唐子	寺院	近世	屋蓋・基壇・軸	石村1961a
23	青鳥城跡	東松山市石橋	—	中世	相輪	柳田他1974
24	慈光平廃寺	小川町靱負	寺院	古代	屋蓋	埼玉県教委1996
25	行司免遺跡	嵐山町大蔵	集落	中世	屋蓋	植木他1988 a・b
26	宮の裏遺跡	嵐山町大蔵	集落	古代	屋蓋	埼玉県立歴史資料館1992 a
27	用土庵B遺跡	滑川町中尾	集落	古代	屋蓋・相輪・軸	植木1997
28	中尾遺跡	滑川町中尾	集落	古代	屋蓋・相輪・軸	植木1997
29	天裏遺跡	滑川町中尾	集落	古代	屋蓋	植木1997
30	新沼窯跡	鳩山町泉井	窯	古代	屋蓋	石村1973a
31	虫草山1号窯跡	鳩山町大橋	窯	古代	屋蓋	坂詰1970・1977
32	山田A1号窯跡	鳩山町赤沼	窯	古代	屋蓋	大川1972
33	小谷B8号窯跡	鳩山町大橋	窯	古代	屋蓋	渡辺他1988
34	柳原A遺跡	鳩山町柳原	集落	古代	屋蓋・相輪・鷗尾・基壇	渡辺他1991
35	竹之城遺跡	鳩山町赤沼	集落	古代	屋蓋	渡辺1995
36	鳩山No.180遺跡	鳩山町赤沼	窯	古代	屋蓋	金井塚1989・1993
37	赤沼地区g地点	鳩山町赤沼	窯	古代	屋蓋	金子1984
38	赤沼地区採集	鳩山町赤沼	窯	古代	屋蓋	池田1995
39	興長寺	鳩山町今宿	寺院	近世	基壇	石村1973a
40	東光寺	玉川村日影	寺院	近世	屋蓋・軸	駒宮・栗岡1994
41	多武峯遺跡	都幾川村西平	塚	古代・中世	屋蓋・相輪・基壇・軸	石村1957、宮1993、都幾川村1998
42	福聚寺跡	都幾川村西平	寺院	中世	不明	埼玉県立歴史資料館1992 b
43	浅見山I遺跡	本庄市東富田	寺院	古代	屋蓋	本庄市1986
44	大久保山遺跡	本庄市栗崎	集落	古代	屋蓋	佐々木他1995
45	寺山廃寺	児玉町河内	寺院	古代	屋蓋・軸	石村1961b、高橋他1982
46	堂平遺跡	児玉町秋山	—	古代	屋蓋・相輪・基壇・軸	石村1973b、池田1995
47	真鏡寺後遺跡	児玉町塩谷	寺院	古代	屋蓋	鈴木1987、池田1995
48	枇杷橋遺跡	児玉町金屋	集落	古代	屋蓋	池田1995
49	般若寺跡	児玉町秋山	寺院	中世	不明	菅谷1985、駒宮・栗岡1994
50	東山遺跡	美里町東山	集落	古代	瓦堂・瓦塔	横川他1980、横川1980、今泉1993
51	富士山台遺跡	美里町関	—	古代	瓦堂屋蓋・軸	石村1973a、横川1980、高崎1990
52	大仏廃寺(駒衣廃寺)	美里町木部	寺院	古代	屋蓋	高橋他1982、宮瀧1992
53	木部窯跡	美里町木部	窯	古代	不明	石村1973a
54	皁樹原・楡下遺跡	神川町元阿保	寺院	古代	屋蓋・相輪	篠崎他1990・1991
55	西別府廃寺	熊谷市西別府	寺院	古代	屋蓋	石村1973a、吉野1994
56	前遺跡	深谷市本田谷	集落	古代	屋蓋	岩瀬1995
57	割山遺跡	深谷市上野台	—	中世	屋蓋	澤出1985
58	末野遺跡	寄居町末野	窯	古代	屋蓋	赤熊1999
59	高柿山山中出土	寄居町金尾	—	古代	屋蓋	石村1956・1973a
60	白山遺跡	岡部町岡部	集落	古代	屋蓋	中村1989
61	藤の木遺跡	岡部町本郷	—	古代	屋蓋・相輪・基壇・軸	石村1962・1973a
62	寺内廃寺	江南町千代	寺院	古代	屋蓋	新井他1993
63	柴出土	江南町柴	—	古代	屋蓋	石村1973a
64	北飯塚出土	花園町北飯塚	—	古代	屋蓋	石村1973a
65	馬場裏遺跡	行田市長野	集落	古代	瓦堂屋蓋	本報告書

引用・参考文献

- 相京邦彦・池田大助 1986 『千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書II』(財)千葉県文化財センター
- 青木義脩他 1977 『上木崎三丁目遺跡発掘調査報告書』浦和市遺跡調査会報告書第5集 浦和市遺跡調査会
- 赤熊浩一 1999 『末野遺跡II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第207集
- 秋元陽光 1988 『薄市遺跡・大山遺跡』上三川町教育委員会
- 新井端他 1993 『千代遺跡群—江南町千代遺跡群発掘調査概報—』江南町教育委員会 江南町千代遺跡群発掘調査会
- 池田敏宏 1995 「瓦塔屋蓋部表現手法の検討—埼玉県児玉町堂平遺跡採集瓦塔をめぐって—」『土曜考古』第19号
- 池田敏宏 1996 「瓦塔屋蓋部編年試論—北武蔵6～8類瓦塔、類似資料を中心として—」『土曜考古』第20号
- 池田敏宏 1998 「瓦塔屋蓋部編年試論II—北武蔵1～5類瓦塔、類似資料を中心として—」『土曜考古』第22号
- 石村喜英 1956 「高柿山の瓦塔遺跡」『史迹と美術』第266号
- 石村喜英 1957 「武蔵多武峯の瓦塔遺跡」『史迹と美術』第271号
- 石村喜英 1961a 「墓塔としての武蔵妙昌寺の瓦塔」『歴史考古』第5号
- 石村喜英 1961b 「武蔵寺山の瓦塔遺跡」『大和文化研究』第6巻5号
- 石村喜英 1962 「武蔵藤ノ木の瓦塔遺跡」『史迹と美術』第324号
- 石村喜英 1973a 「埼玉県内における瓦塔(上)・(下)」『埼玉文化史研究』4・5
- 石村喜英 1973b 「児玉町堂平瓦塔遺跡発掘調査概要」『埼玉県埋蔵文化財発掘調査要覧』(昭和26年～昭和40年)埼玉県教育委員会
- 石村喜英 1979 「瓦塔と泥塔」『新版考古学講座8特論(上)祭祀・信仰』
- 石村喜英 1984 「瓦塔」『新版仏教考古学講座 第3巻 塔・塔婆』
- 石村喜英 1987 「勝呂廃寺の創建をめぐる諸問題」『埼玉の考古学』
- 市毛勲他 1990 『お伊勢山遺跡の調査 第4部 弥生時代から平安時代』早稲田大学 所沢校地文化財調査室
- 今泉潔・笹生衛 1994 『千葉県木更津市大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書』木更津市教育委員会
- 今泉泰之 1993 『埼玉県児玉郡美里町東山遺跡出土瓦塔・瓦堂解体修復報告書』埼玉県教育委員会 埼玉県立歴史資料館
- 今泉泰之他 1997 『東京都東村山市多摩湖町出土瓦塔調査報告書』東村山市教育委員会
- 入間市史編さん室 1986 『入間市史 原始・古代資料編』入間市
- 岩瀬 譲 1995 『前・居立』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第151集
- 植木智子 1997 『滑川嵐山ゴルフコース内遺跡群』滑川嵐山ゴルフコース内遺跡群発掘調査会
- 植木弘他 1988a 『行司免—本文編—』嵐山町遺跡調査会
- 植木弘他 1988b 『行司免—遺物図版編—』嵐山町遺跡調査会
- 上村和直 1991 「瓦製塔の性格」『季刊考古学』第34号
- 大江正行 1992 『史跡十三宝塚遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第134集
- 大川 清 1972 『日本の古代瓦窯』
- 太田市 1996 『太田市史 通史編 原始古代』
- 大野康男 1991 『八千代市白幡前遺跡』(財)千葉県文化財センター
- 岡田賢治 1993 「川越城本丸跡出土の瓦塔」『目の眼』201
- 書上元博 1996 『八木上／八木／八木前／上広瀬北／森坂北／森坂』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第165集
- 金井塚厚志 1989 『境田遺跡』鳩山町埋蔵文化財調査報告第5集
- 金井塚厚志 1993 『久保1号瓦窯跡』鳩山町埋蔵文化財調査報告第14集
- 金子真土 1984 「埼玉における古代窯業の発達(6)」『研究紀要』第6号 埼玉県立歴史資料館
- 川越市 1972 『川越市史 第1巻原始古代編』
- 桑原滋郎・高野芳宏 1990 「多賀城廃寺跡」『多賀城市史 第4巻 考古資料』多賀城市
- 小淵良樹他 1981 『上福岡市遺跡調査報告書』郷土史料第27集 上福岡市教育委員会
- 小淵良樹 1983 『狭山市遺跡分布調査報告書1』
- 駒宮史朗・栗岡眞理子 1994 『埼玉の瓦塔』資料館ガイドブックNo.12 埼玉県立歴史資料館
- 埼玉県教育委員会 1996 『埼玉県埋蔵文化財調査年報 平成6年度』
- 埼玉県立歴史資料館 1992a 『天上へ向かうかたち—さまざまな塔—』

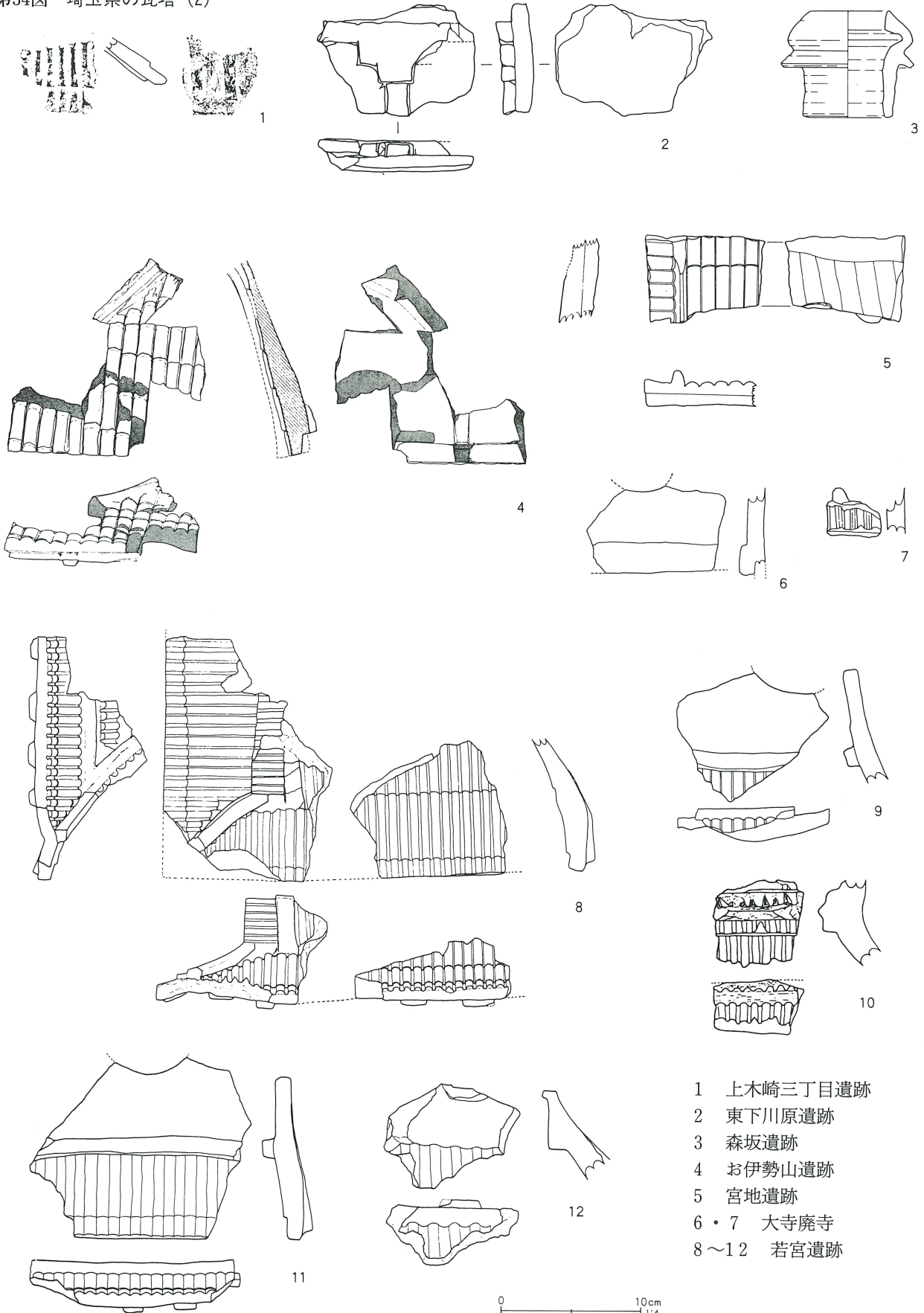
- 埼玉県立歴史資料館 1992b 『埼玉の中世寺院跡』 埼玉県教育委員会
- 坂詰秀一 1964 「東国における須恵器の生産とその歴史的背景についての予察」『立正大学文学部論叢』19
- 坂詰秀一 1970 「埼玉県虫草山窯跡の調査」『考古学ジャーナル』第49号
- 坂詰秀一 1977 『武蔵虫草山窯跡』 鳩山村教育委員会
- 坂戸市教育委員会 1992 『坂戸市史 古代資料編』
- 佐々木幹雄他 1995 『大久保山Ⅲ』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告 3
- 笹生 衛 1993 「国分寺の建立と仏教」『房総考古学ライブラリー7 歴史時代(1)』(財)千葉県文化財センター
- 笹生 衛 1994 『上大城遺跡発掘調査報告書』(財)君津郡市文化財センター
- 狭山市 1986 『狭山市史 原始・古代資料編』
- 澤出晃越 1985 『割山遺跡(第4次)』 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
- 篠崎潔他 1990 『臼樹原・檜下遺跡Ⅱ 奈良・平安時代編1』 臼樹原・檜下遺跡調査会報告書第2集
- 篠崎潔他 1991 『臼樹原・檜下遺跡Ⅲ 奈良・平安時代編2』 臼樹原・檜下遺跡調査会報告書第3集
- 菅谷浩之 1985 「児玉町秋山般若寺廃寺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』 埼玉県教育委員会
- 鈴木徳雄 1987 「古代那珂郡における水利灌漑と在地信仰」『秋山東遺跡』 児玉町遺跡調査会報告書第2集
- 大護八郎他 1978 『高岡寺院跡発掘調査報告書』 高岡寺院跡発掘調査会
- 高崎光司 1989 「瓦塔小考」『考古学雑誌』第74巻第3号
- 高崎光司 1990 「瓦塔瞥見」『研究紀要』第7号(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋一夫他 1982 『埼玉県古代寺院跡調査報告書』 埼玉県史編さん室
- 田所 真 1993 「孟地遺跡の環」『市原市文化財センター研究紀要Ⅱ』(財)市原市文化財センター
- 帝室博物館 1937 『天平地宝』
- 都幾川村 1998 『都幾川村史資料2 考古資料編』
- 所沢市 1990 『所沢市史 上』
- 富田和夫 1992 『稻荷前遺跡(A区)』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第120集
- 富田和夫 1994 『稻荷前遺跡(B・C区)』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第145集
- 中平 薫 1983 『若宮一第3次発掘調査概報一』 日高町埋蔵文化財調査報告第5集
- 中平 薫 1984a 『若宮一第2次発掘調査報告一』 日高町埋蔵文化財調査報告第7集
- 中平 薫 1984b 『大寺廃寺』 日高町埋蔵文化財調査報告第8集
- 中村倉司 1989 『白山遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査報告第17集 埼玉県教育委員会
- 早川由利子 1995 『川越市東下川原遺跡発掘調査報告書』 東下川原遺跡調査会
- 藤沢一夫 1975 「近江衣川廃寺の屋瓦と瓦塔」『衣川廃寺発掘調査報告』 滋賀県教育委員会
- 本庄市 1986 『本庄市史(通史編Ⅰ)』
- 松本修自 1983 「小さな建築」『文化財論叢』 奈良国立文化財研究所30周年記念論文集
- 松本修自 1984 「塔と仏堂の小建築」『小建築の世界一埴輪から瓦塔まで一』 国立飛鳥資料館
- 水口由紀子 1998 「小さな建物にこめられた願いー古代仏教信仰のひろがりー」『也加多』第43号 埼玉県立歴史資料館
- 宮 昌之 1993 「埼玉県指定文化財 多武峯瓦塔遺跡出土の瓦塔」『研究紀要』第15号 埼玉県立歴史資料館
- 宮瀧交二 1992 「美里町大仏廃寺出土の瓦塔片」『埼玉県立博物館だより』Vol.20-2
- 宮瀧交二 1995 「『山野路辺』における『百姓』の『造塔』についてー『続日本紀』天平十九年十二月十四日条の一考察ー」
『古代史研究』第13号
- 柳田敏司他 1957 『浦和市上木崎古代遺跡発掘報告書』 浦和市教育委員会
- 柳田敏司他 1974 『青鳥城跡』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第6集 埼玉県教育委員会
- 横川好富他 1980 『甘粕山』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第30集 埼玉県教育委員会
- 横川好富 1980 「埼玉県美里村出土の瓦塔」『考古学雑誌』第66巻第2号
- 吉野 健 1994 『西別府廃寺(第2次)』 平成5年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書 熊谷市教育委員会
- 渡辺 一他 1988 『鳩山窯跡群Ⅰ』 鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会
- 渡辺 一他 1991 『鳩山窯跡群Ⅲ』 鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会
- 渡辺 一 1995 『竹之城・石田・皿沼下遺跡』 鳩山町埋蔵文化財調査報告第17集

第33図 埼玉県ノ瓦塔 (1)



1~6 川越城本丸跡

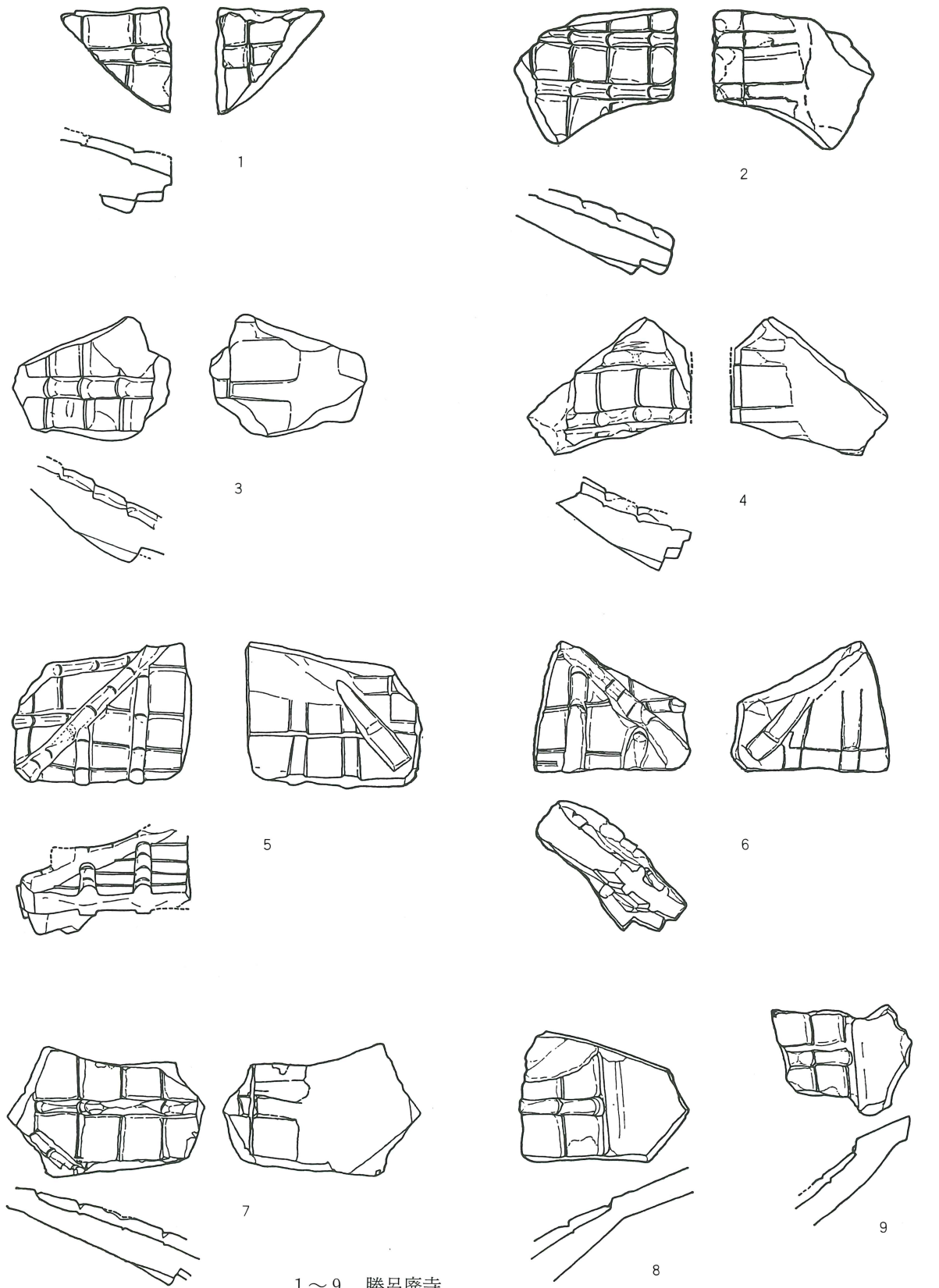
第34図 埼玉県内の瓦塔 (2)



- 1 上木崎三丁目遺跡
- 2 東下川原遺跡
- 3 森坂遺跡
- 4 お伊勢山遺跡
- 5 宮地遺跡
- 6・7 大寺廃寺
- 8~12 若宮遺跡

0 10cm
1:4

第35図 埼玉県の瓦塔 (3)



1~9 勝呂麿寺

0 10cm
1:4

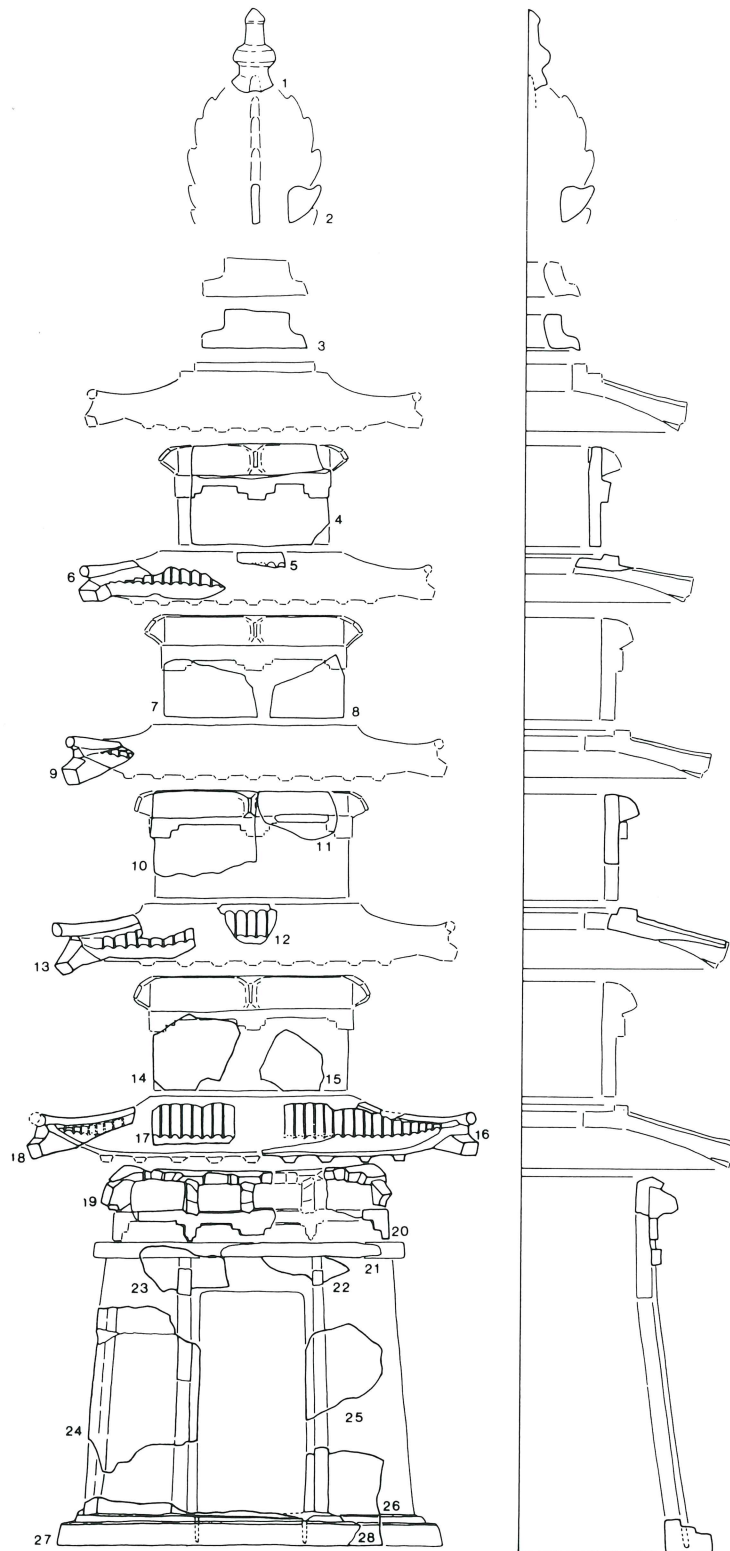
第36図 埼玉県内の瓦塔 (4)



1~14 勝呂廃寺

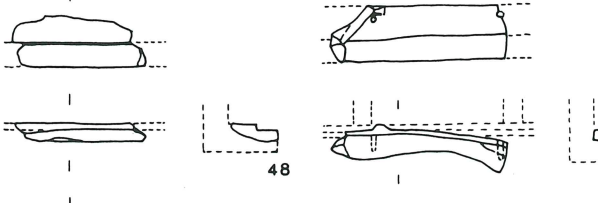
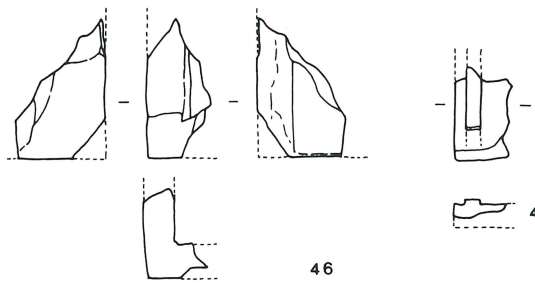
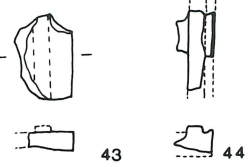
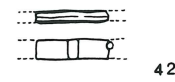
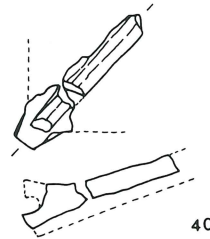
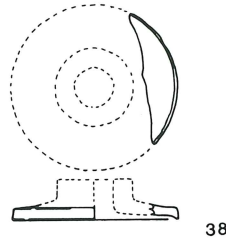
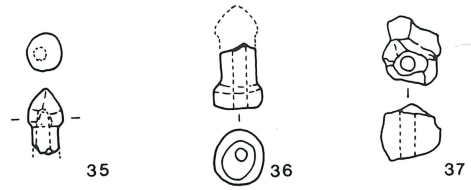
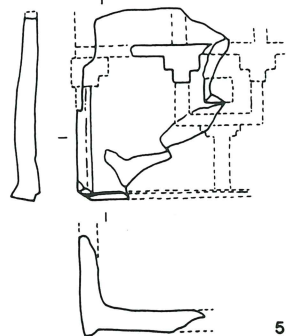
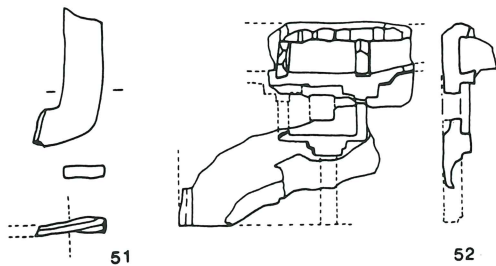
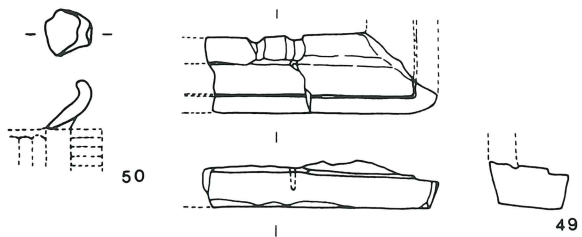
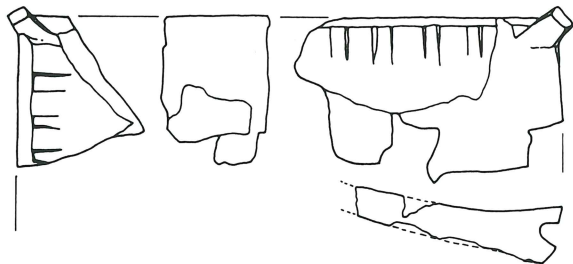
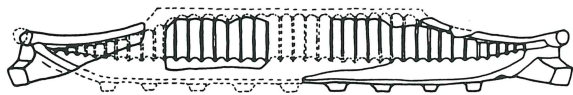
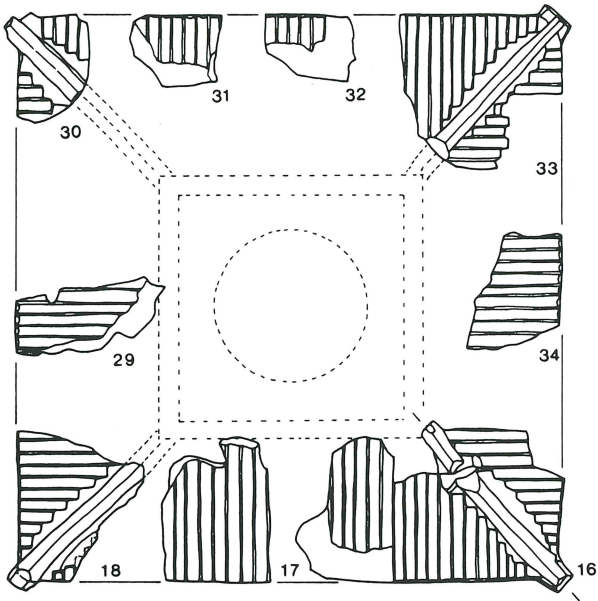
0 10 cm
1:4

第37図 埼玉県ノ瓦塔 (5)

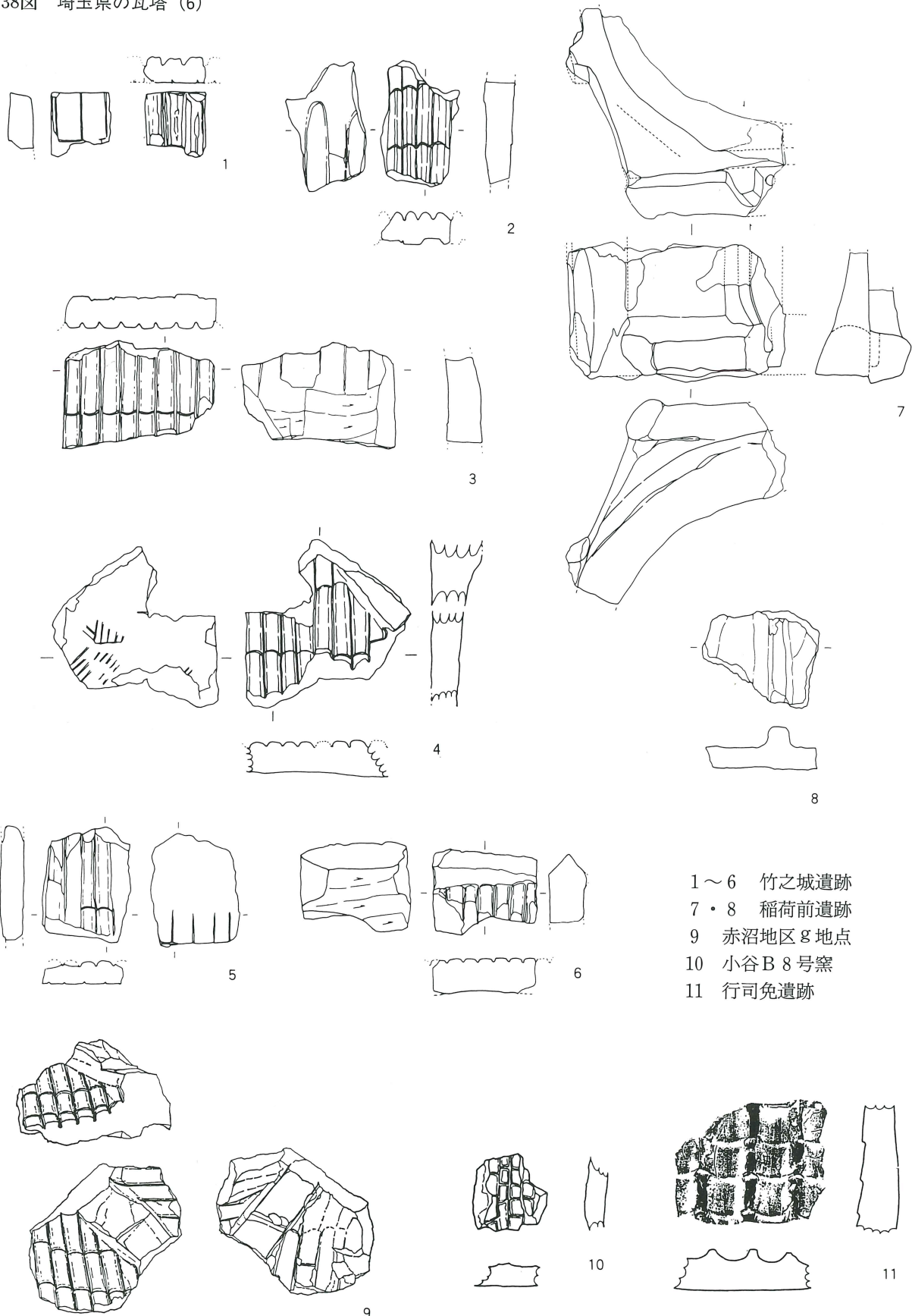


1～54 柳原A遺跡

0 10cm
1:5



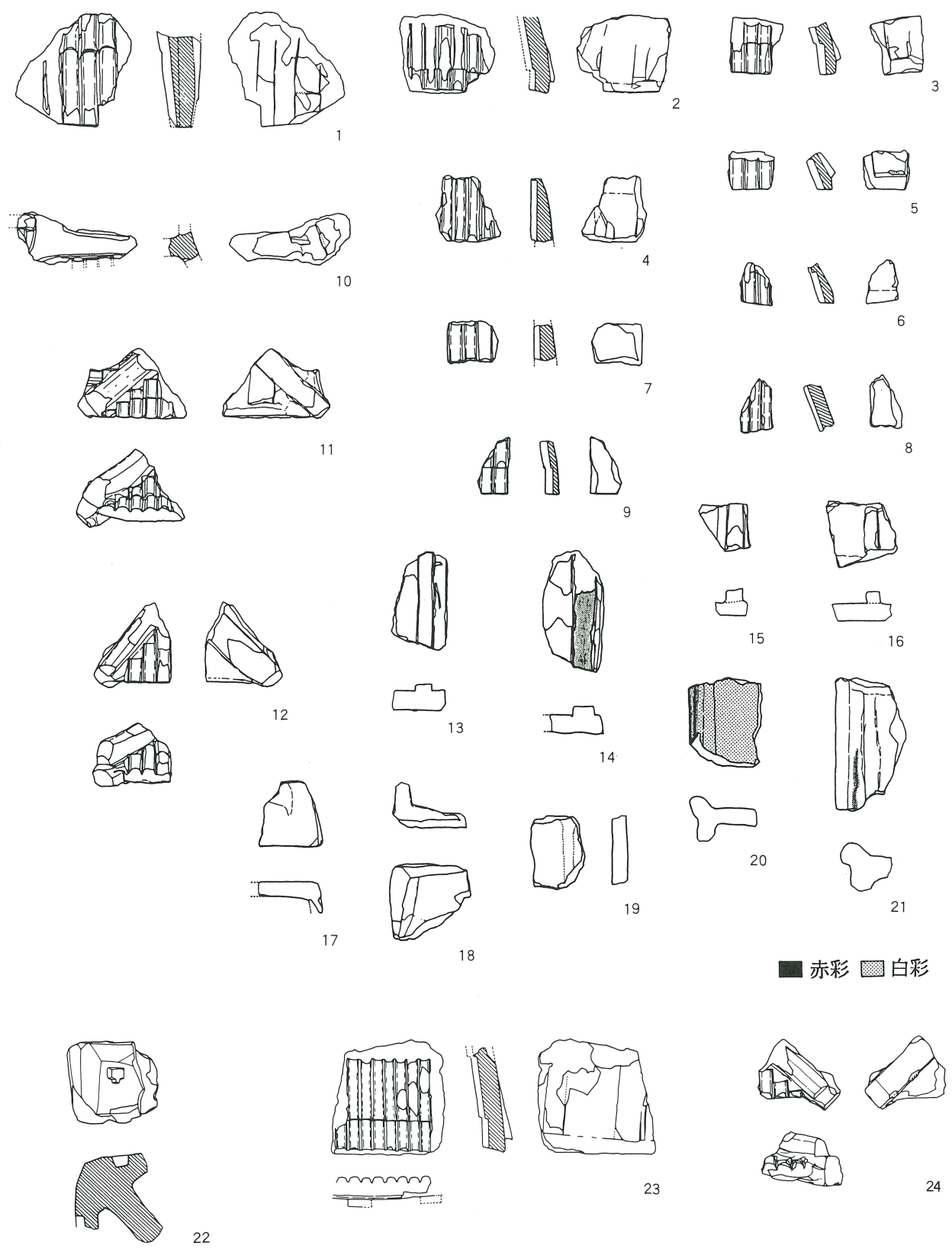
第38図 埼玉県内の瓦塔 (6)



- 1~6 竹之城遺跡
- 7・8 稲荷前遺跡
- 9 赤沼地区g地点
- 10 小谷B 8号窯
- 11 行司免遺跡

0 10 cm
1:4

第39図 埼玉県ノ瓦塔 (7)



1~24 西別府廃寺

0 10cm
1:4

第40図 埼玉県内の瓦塔 (8)



第41図 埼玉県内の瓦塔 (9)



1~34 用土庵B遺跡
35 天裏遺跡

0 10 cm
1:4

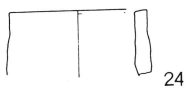
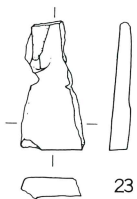
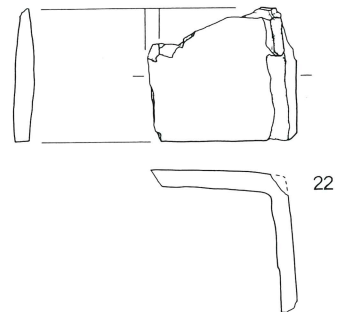
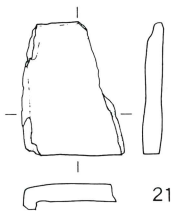
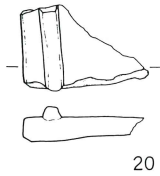
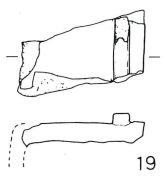
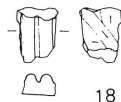
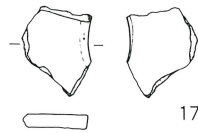
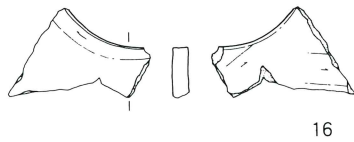
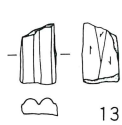
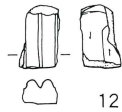
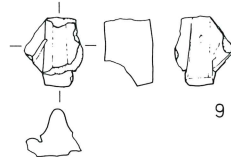
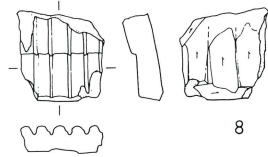
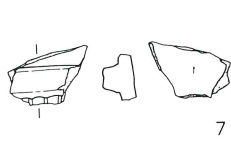
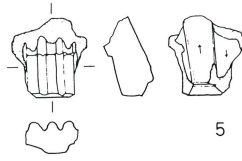
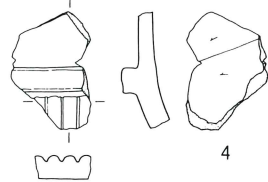
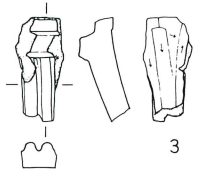
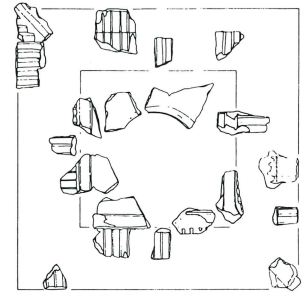
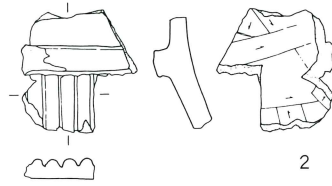
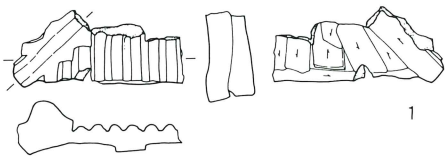
第42図 埼玉県内の瓦塔 (10)



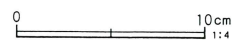
1~24 中尾遺跡

0 10 cm 1:4

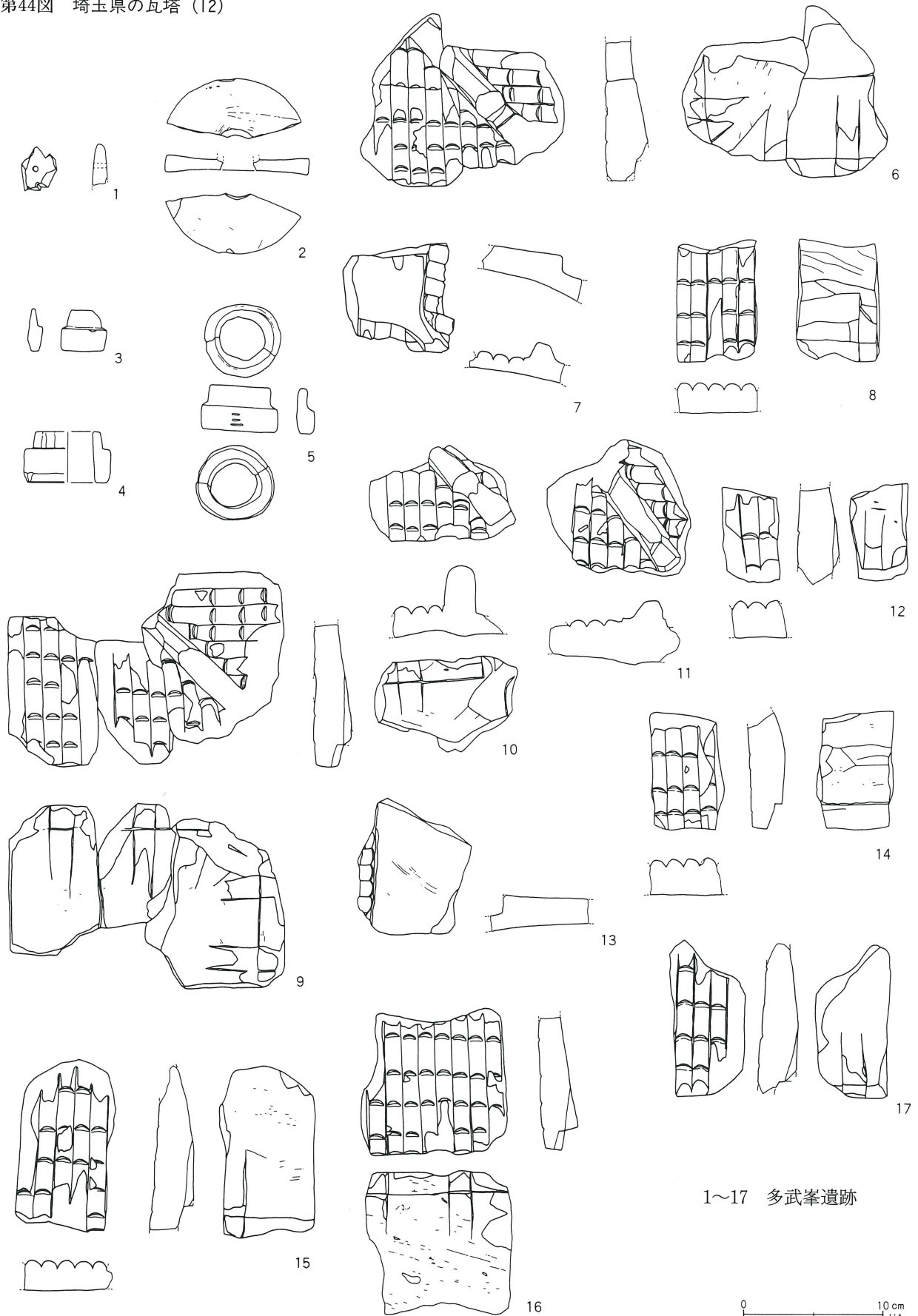
第43図 埼玉県内の瓦塔 (11)



1~27 中尾遺跡



第44図 埼玉県内の瓦塔 (12)

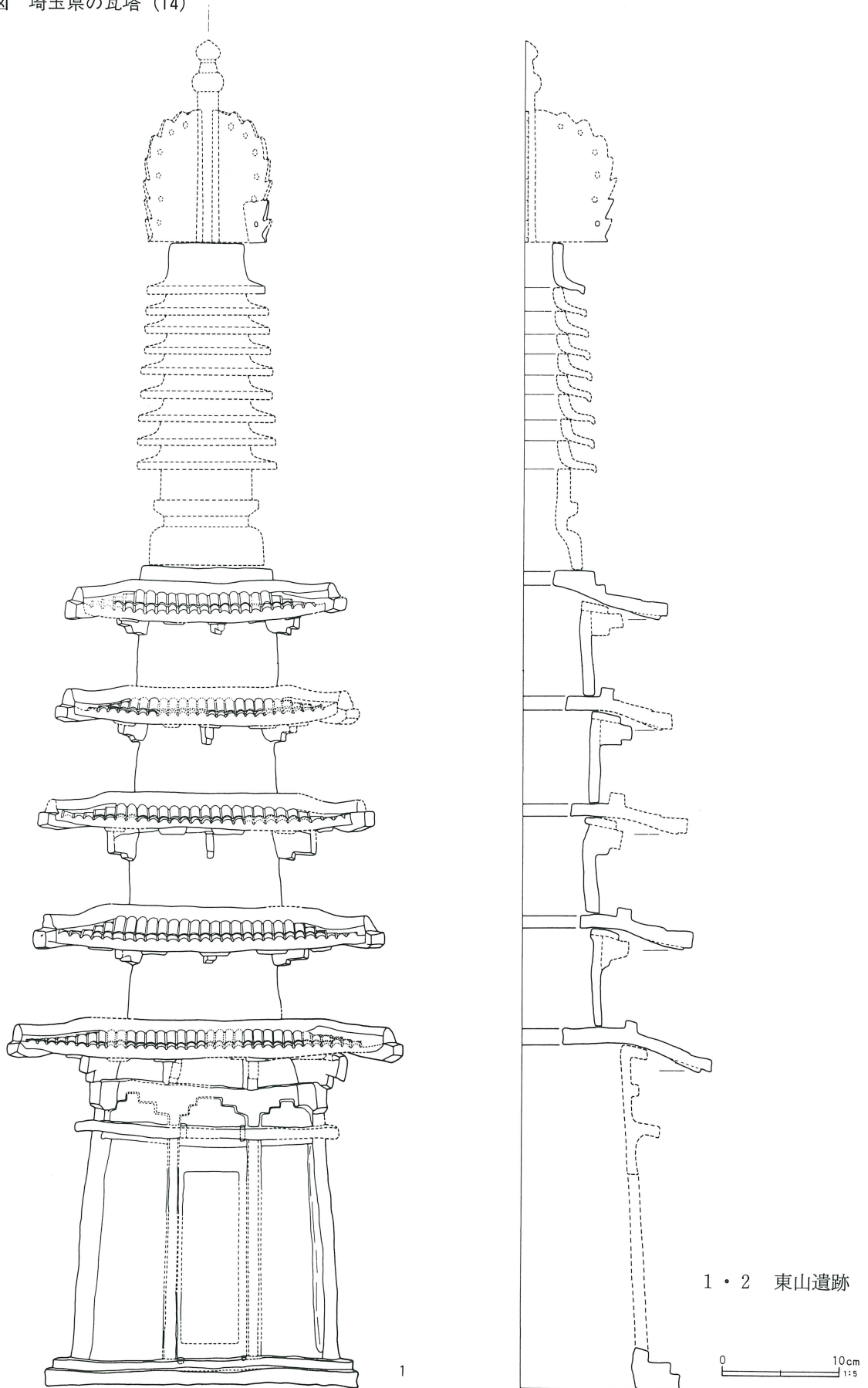


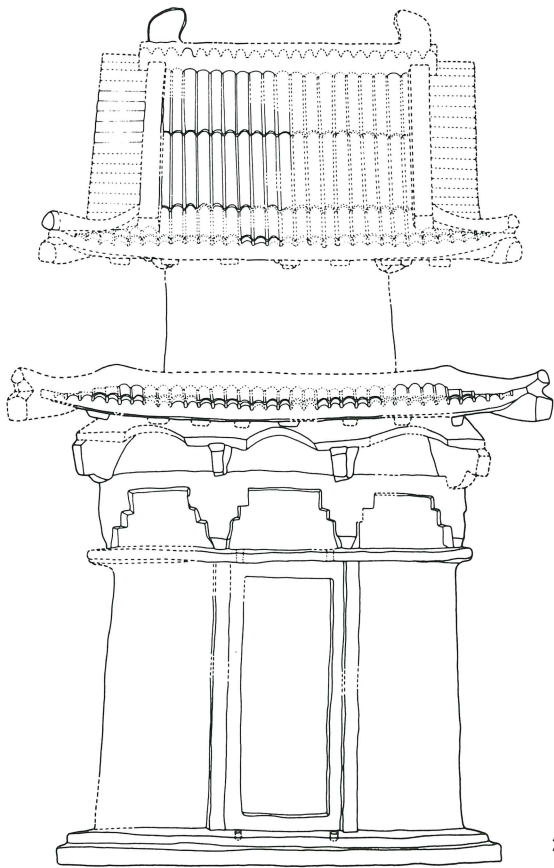
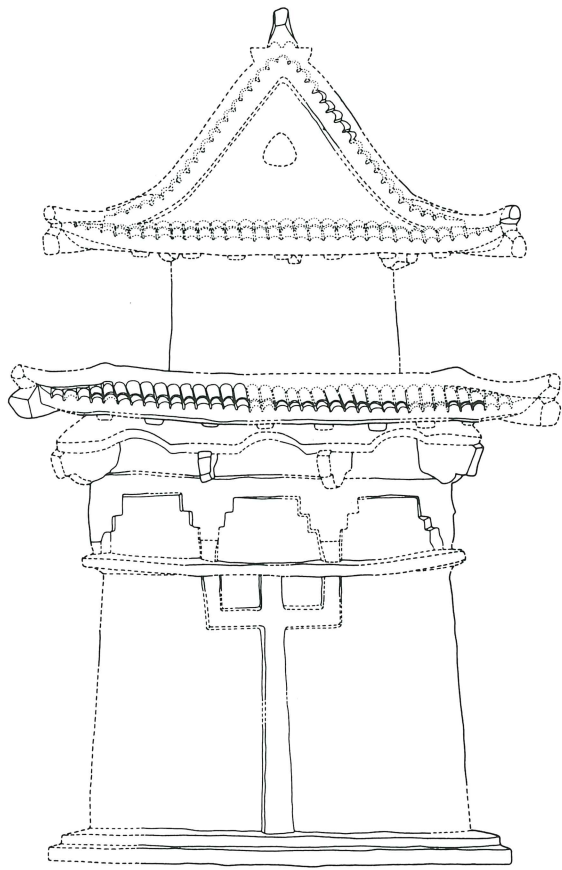
第45図 埼玉県内の瓦塔 (13)



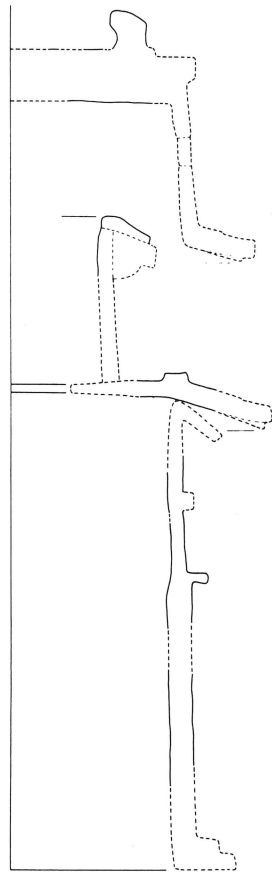
1~12 多武峯遺跡

第46図 埼玉県ノ瓦塔 (14)

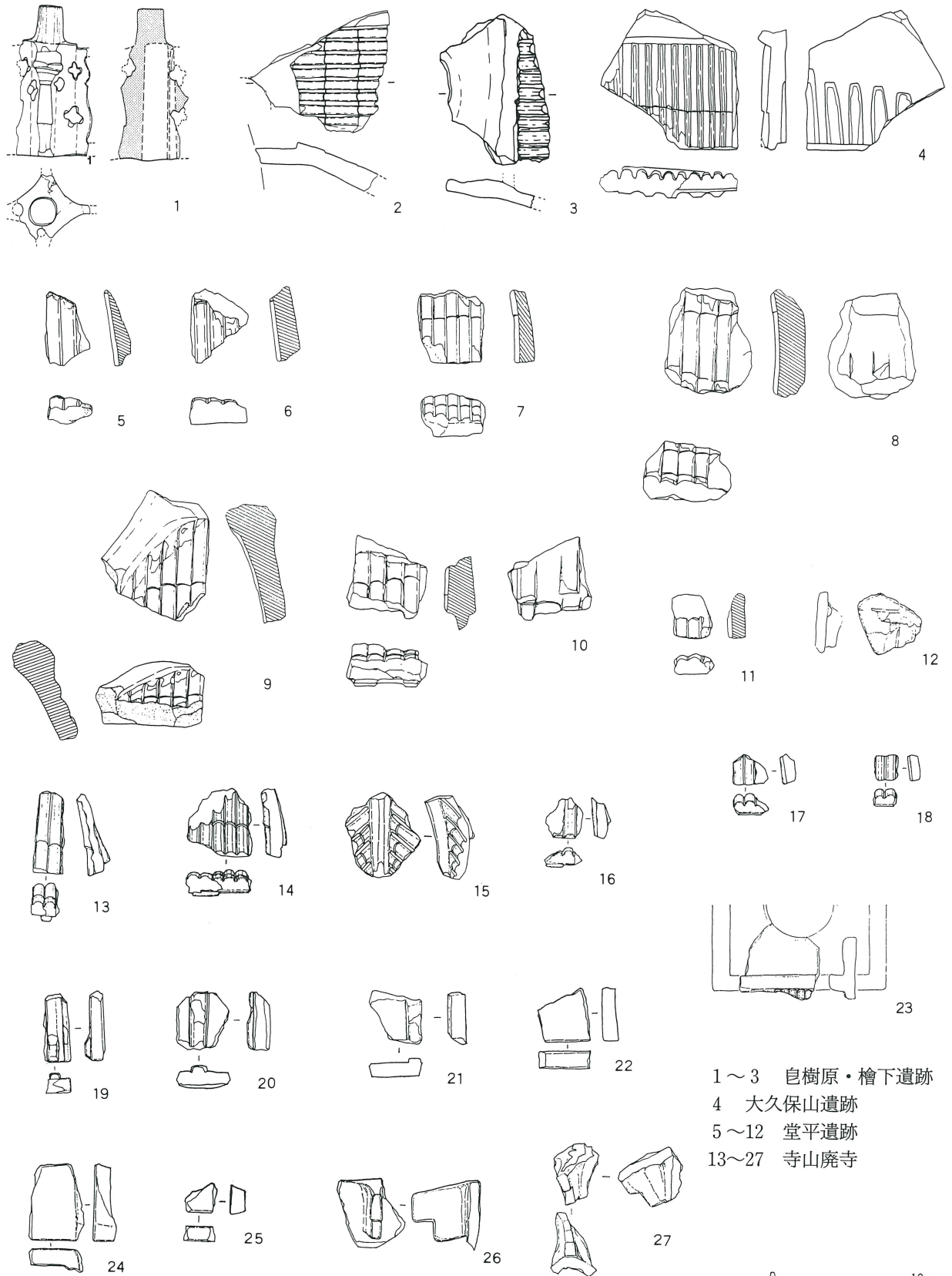




2



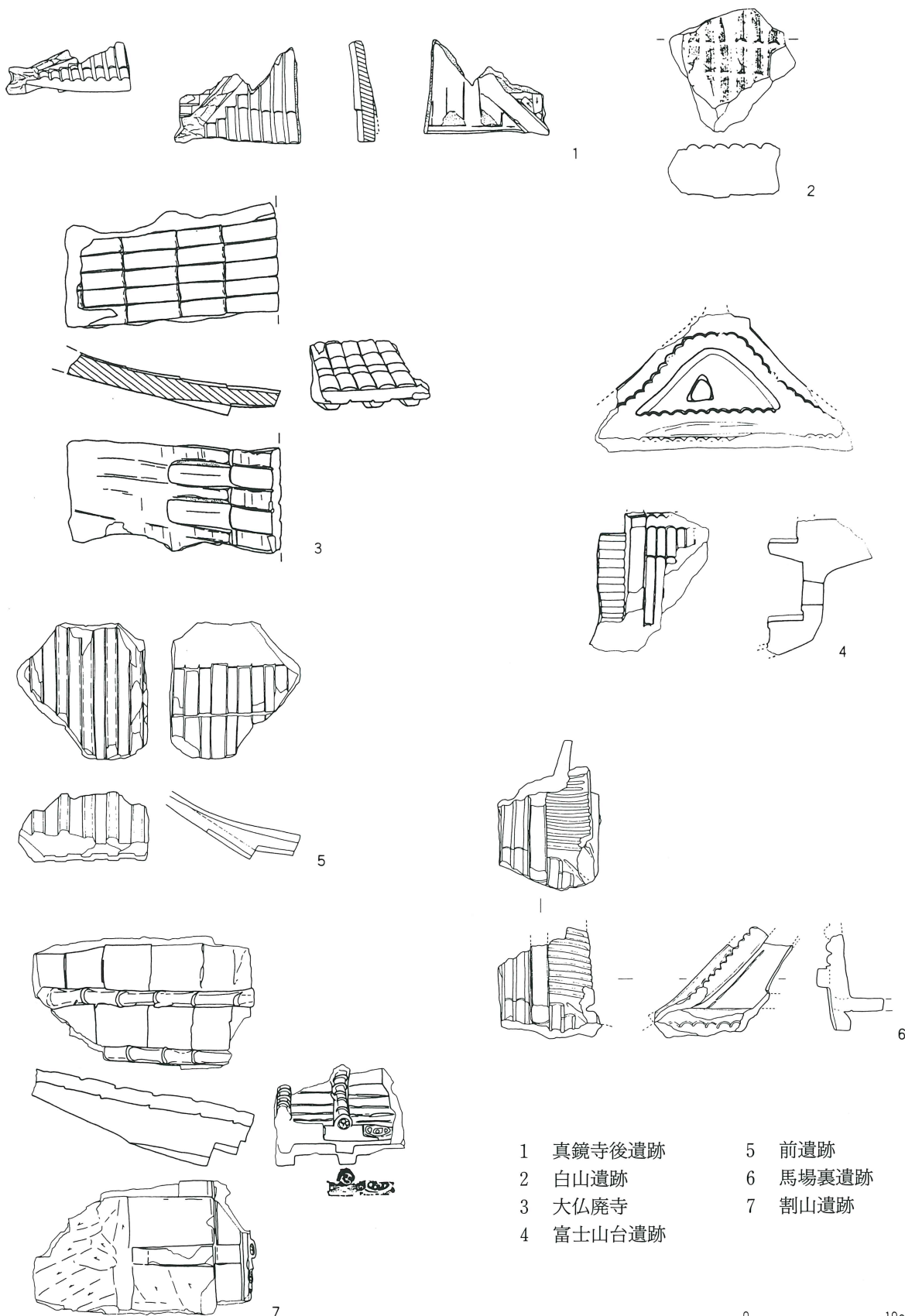
第47図 埼玉県の瓦塔 (15)



1~3 皂樹原・檜下遺跡
 4 大久保山遺跡
 5~12 堂平遺跡
 13~27 寺山麿寺

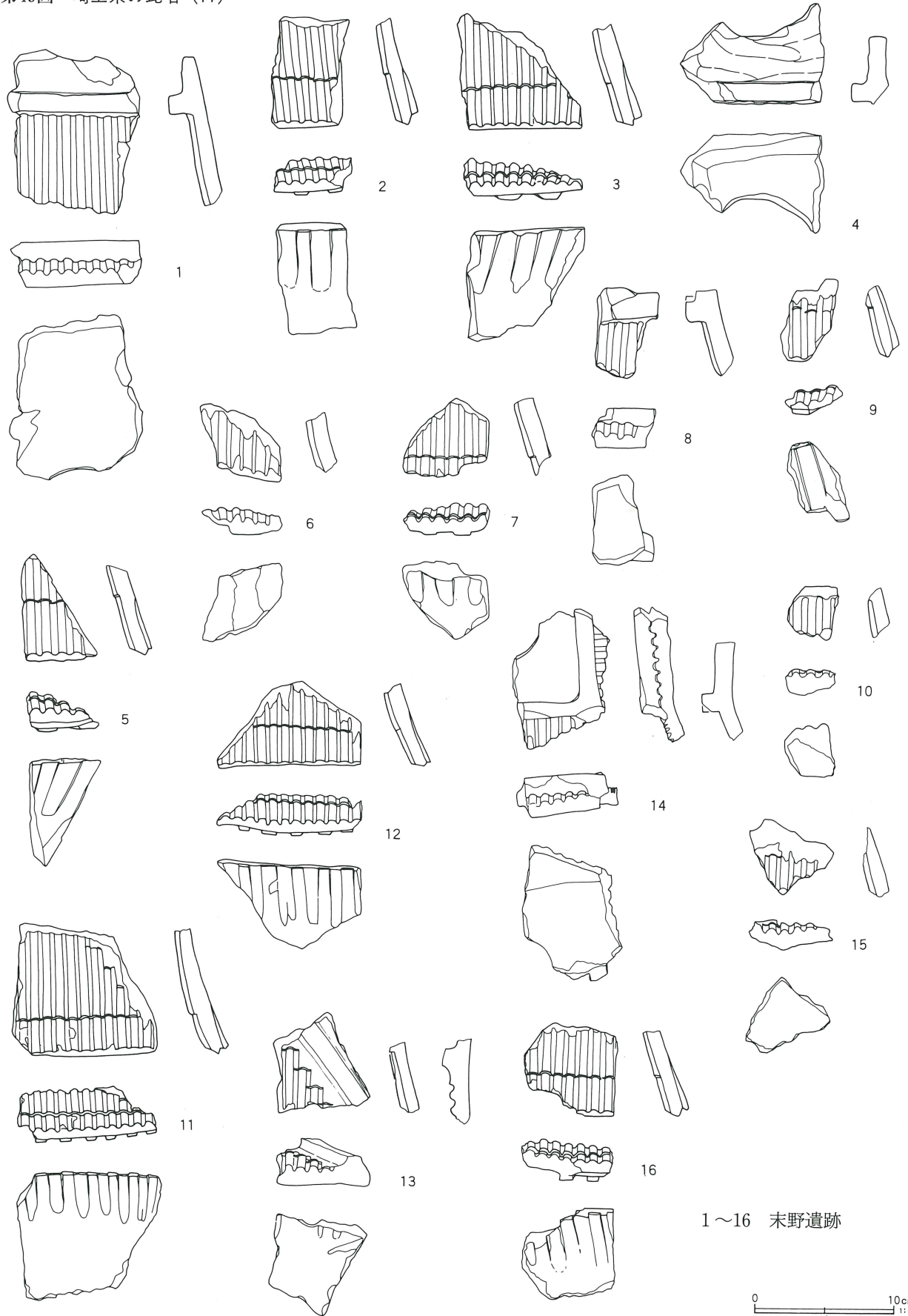
0 10 cm
1:4

第48図 埼玉県内の瓦塔 (16)



0 10cm
1:4

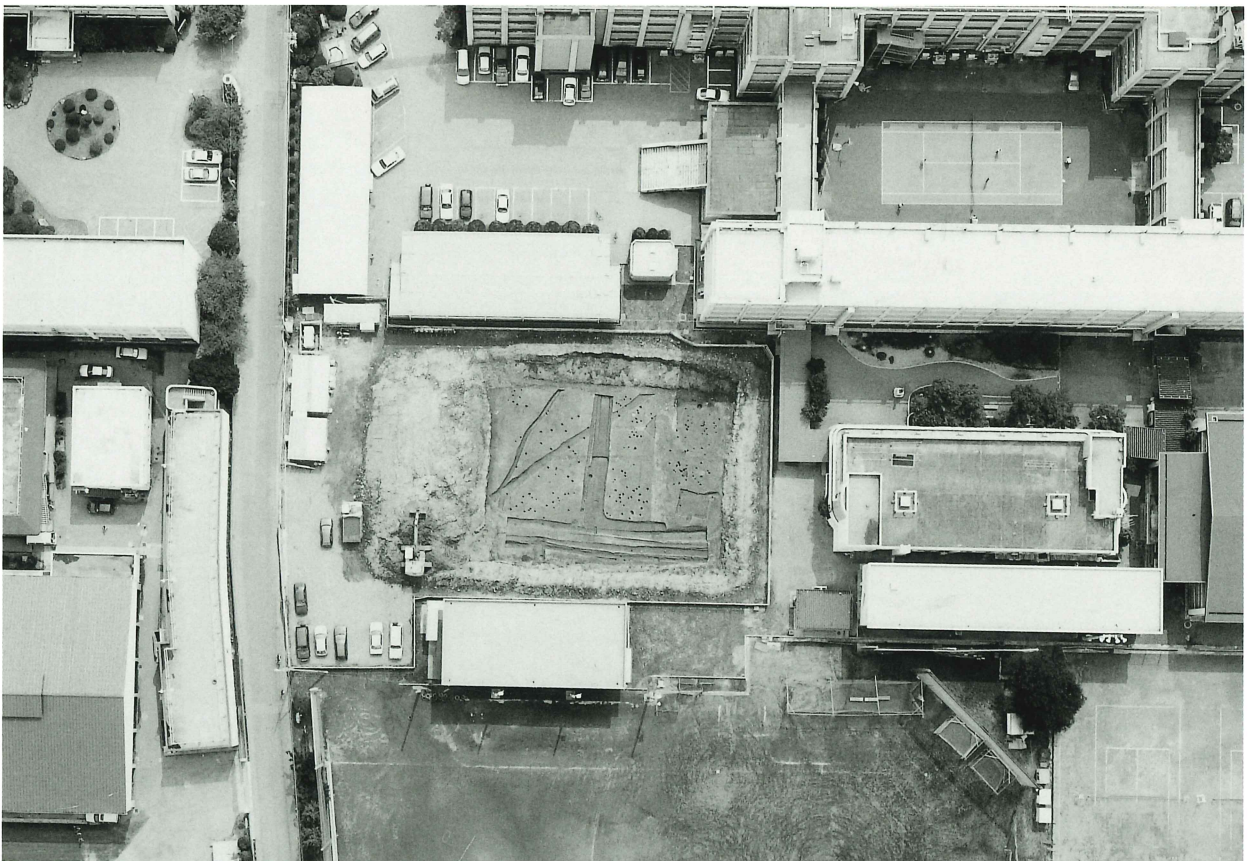
第49図 埼玉県の瓦塔 (17)



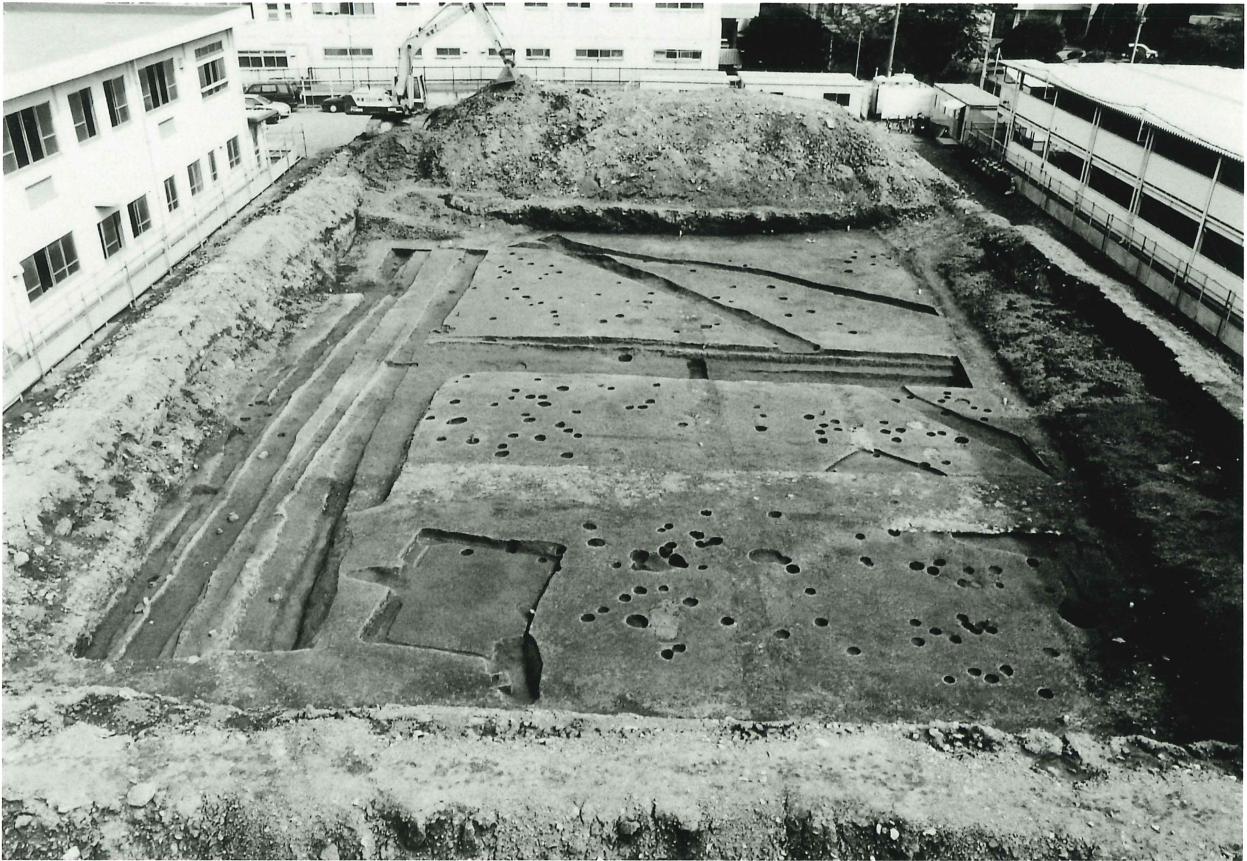
写真図版



調査区遠景



調査区全景



南側調査区（西半部）



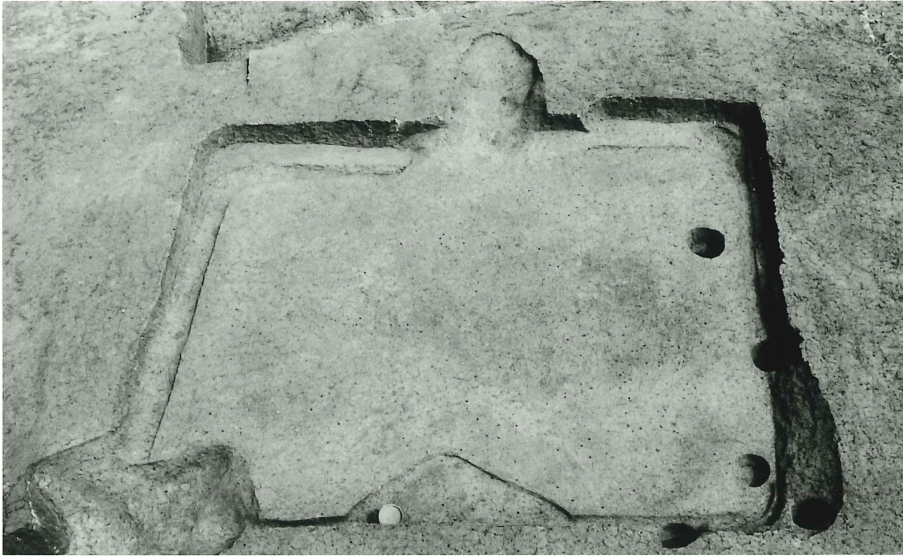
南側調査区（東半部）



縄文土器出土状況 (D-4 グリッド)



同上



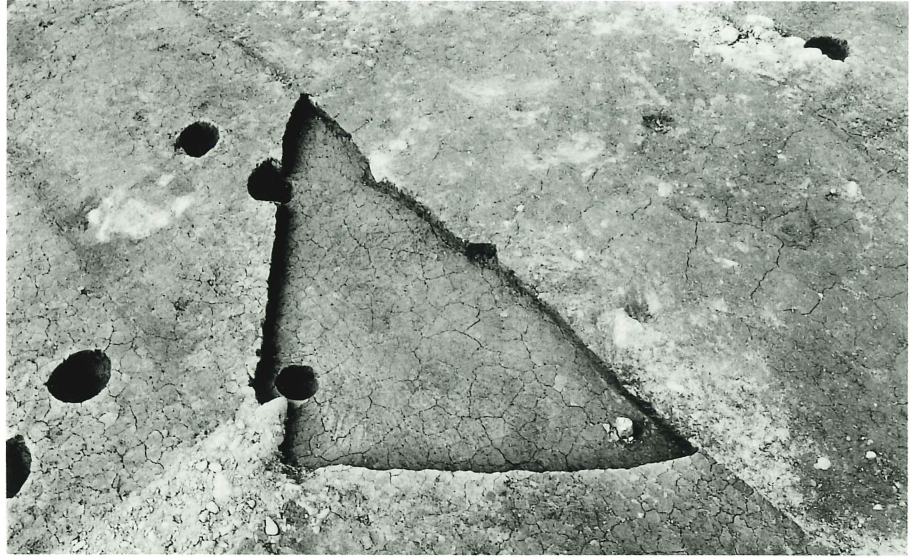
第1号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡



第 3 号住居跡



第 4 号住居跡



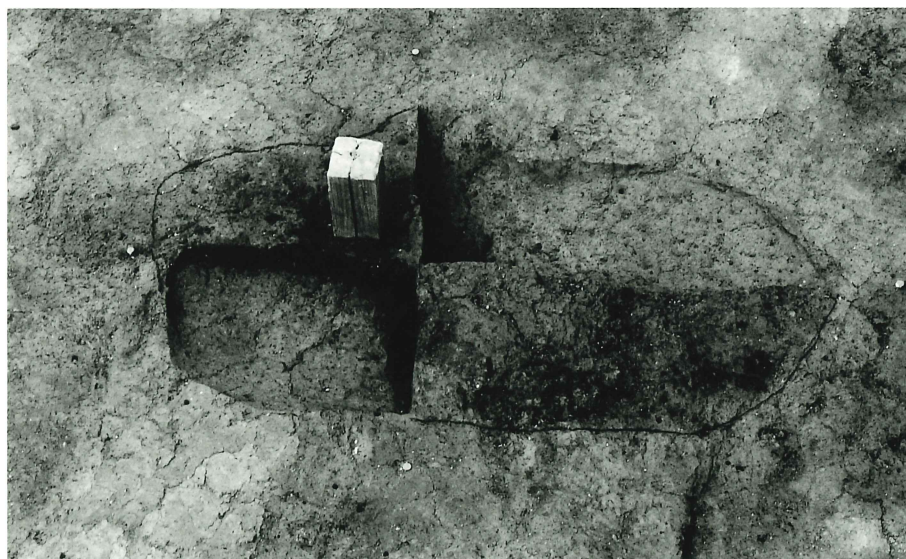
第 5 号住居跡



第 1 号火葬跡



第 2 号火葬跡



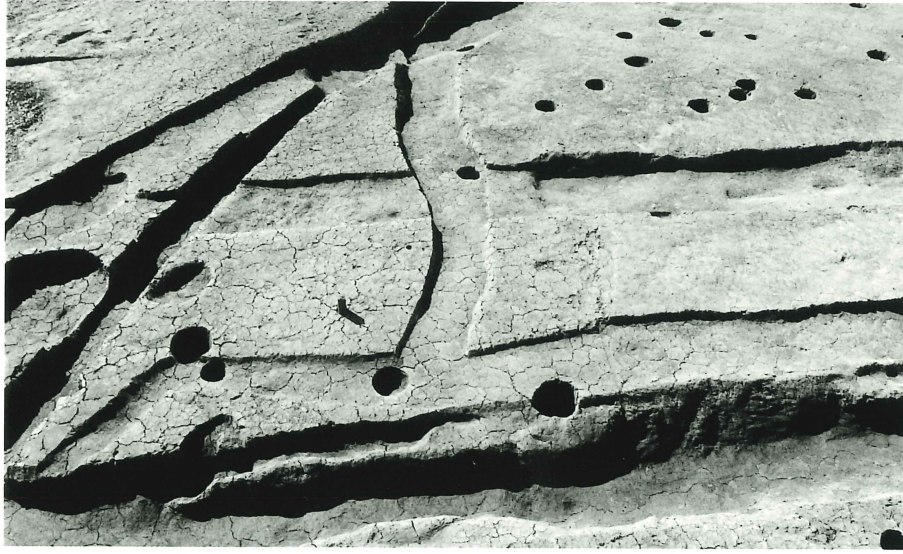
第 2 号火葬跡土層断面



第1～4号溝（東から）



第1・2・4号溝（西から）



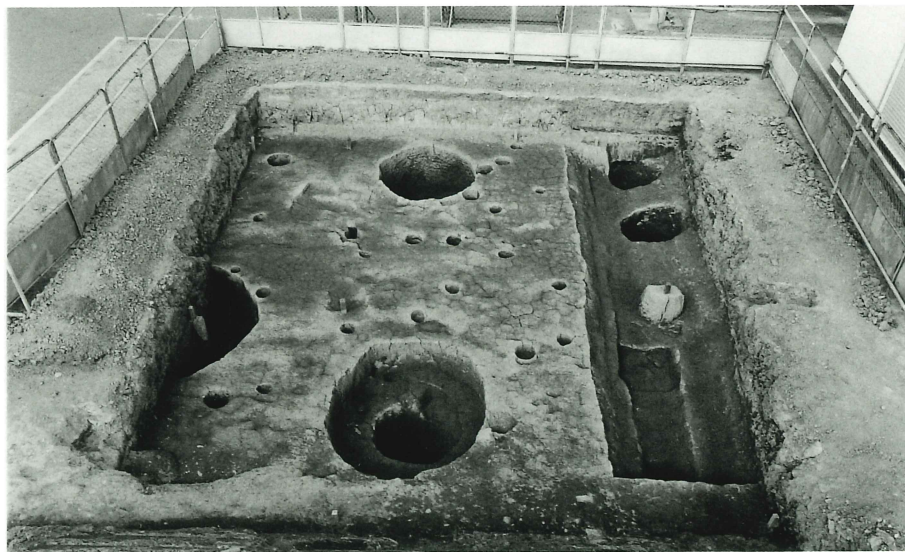
第1・4・9号溝（北から）



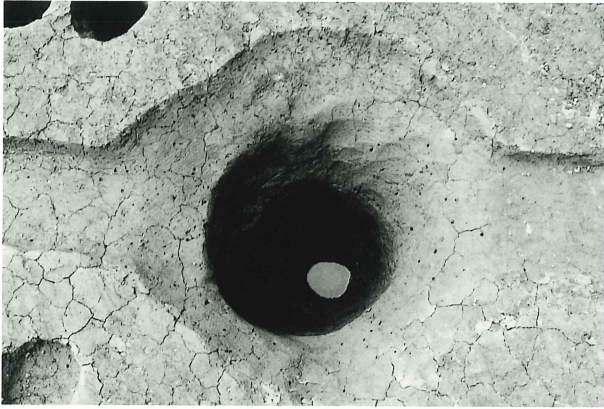
第7・8号溝（北東から）



第5・6号溝（北から）



第14号溝（南から）



第1号井戸



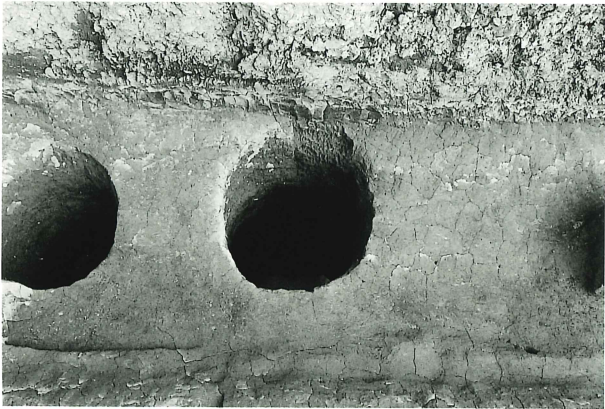
第2号井戸



第3号井戸



第4号井戸



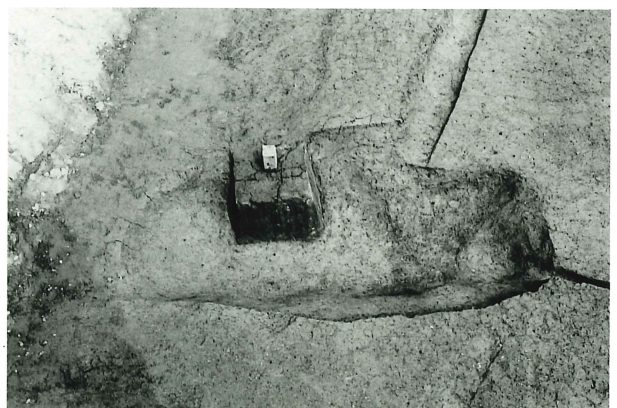
第5号井戸



第6号井戸



第1号土壇



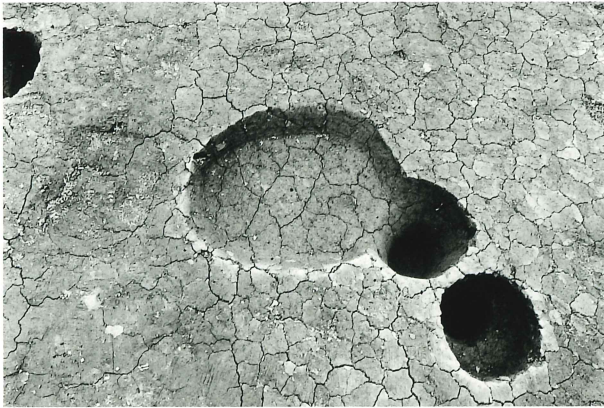
第2号土壇



第3号土壤



第4·5号土壤



第6号土壤



第7号土壤



第8号土壤



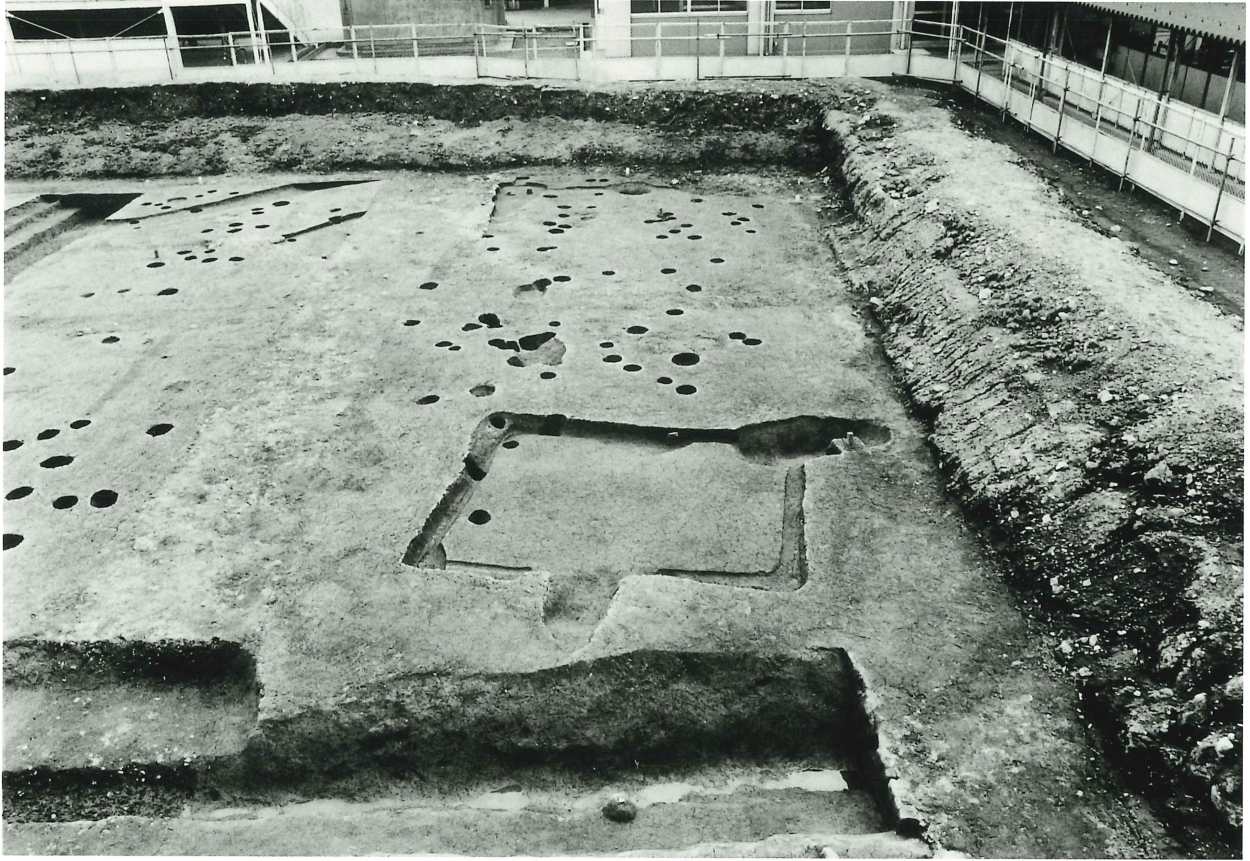
第10号土壤



第11号土壤



第12号土壤



ピット群 (B-3・4グリッド周辺)



ピット群 (C-3グリッド周辺)



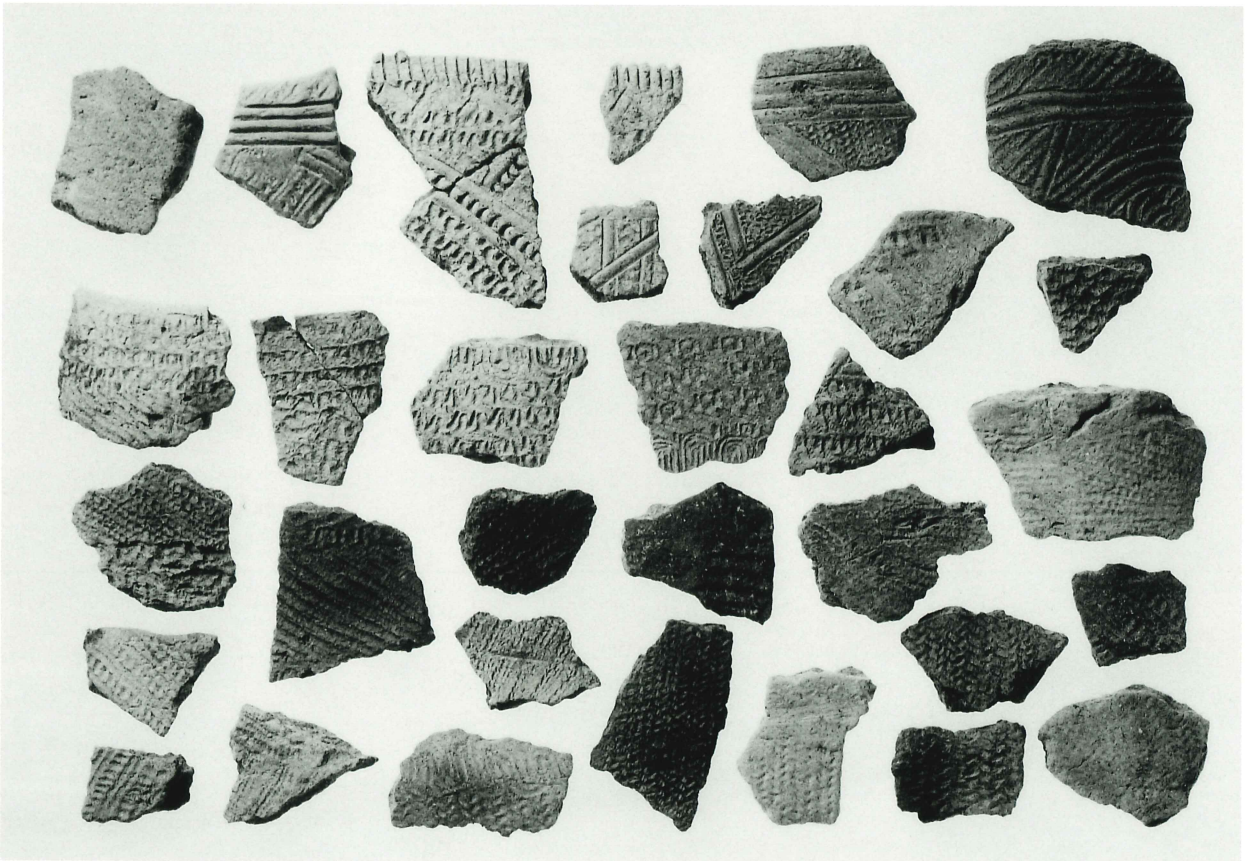
ピット群 (D-3・4グリッド周辺)



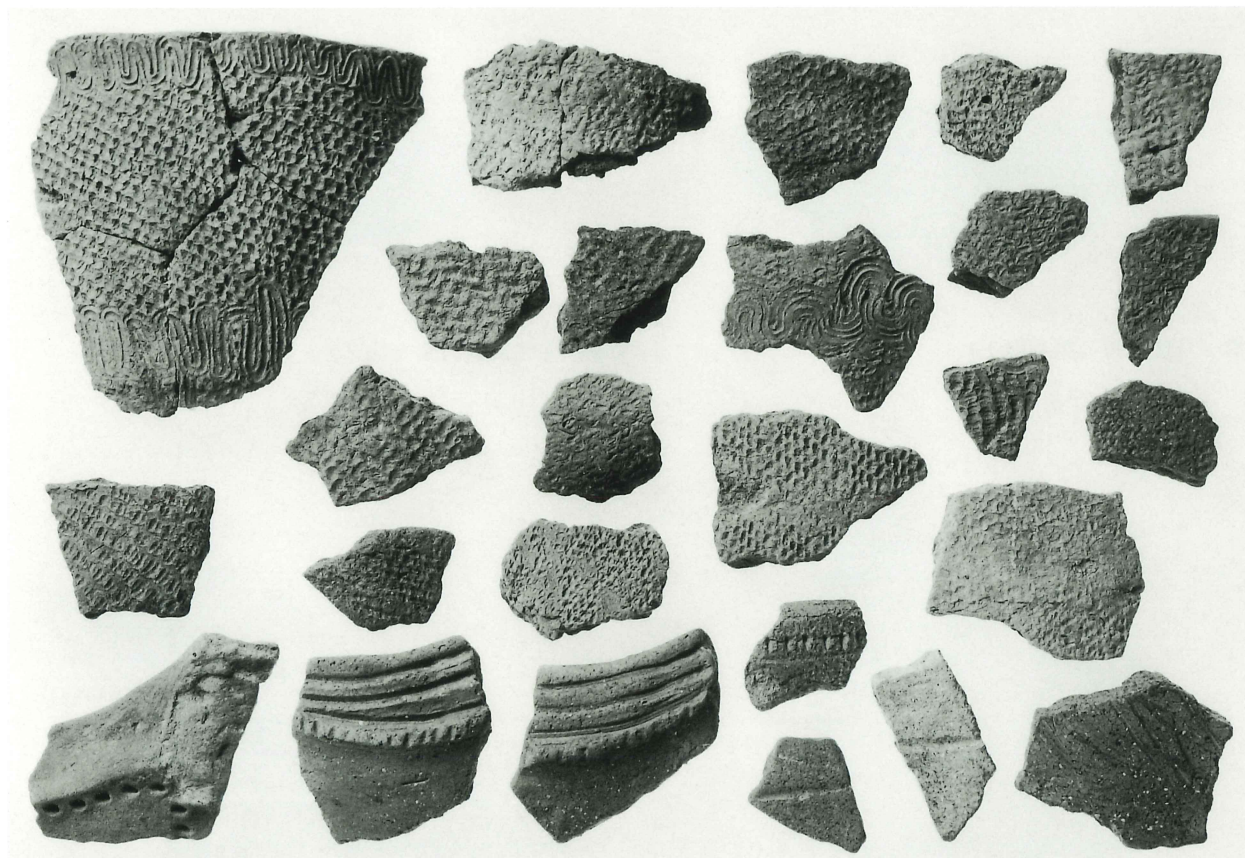
ピット群 (F-4・5グリッド周辺)



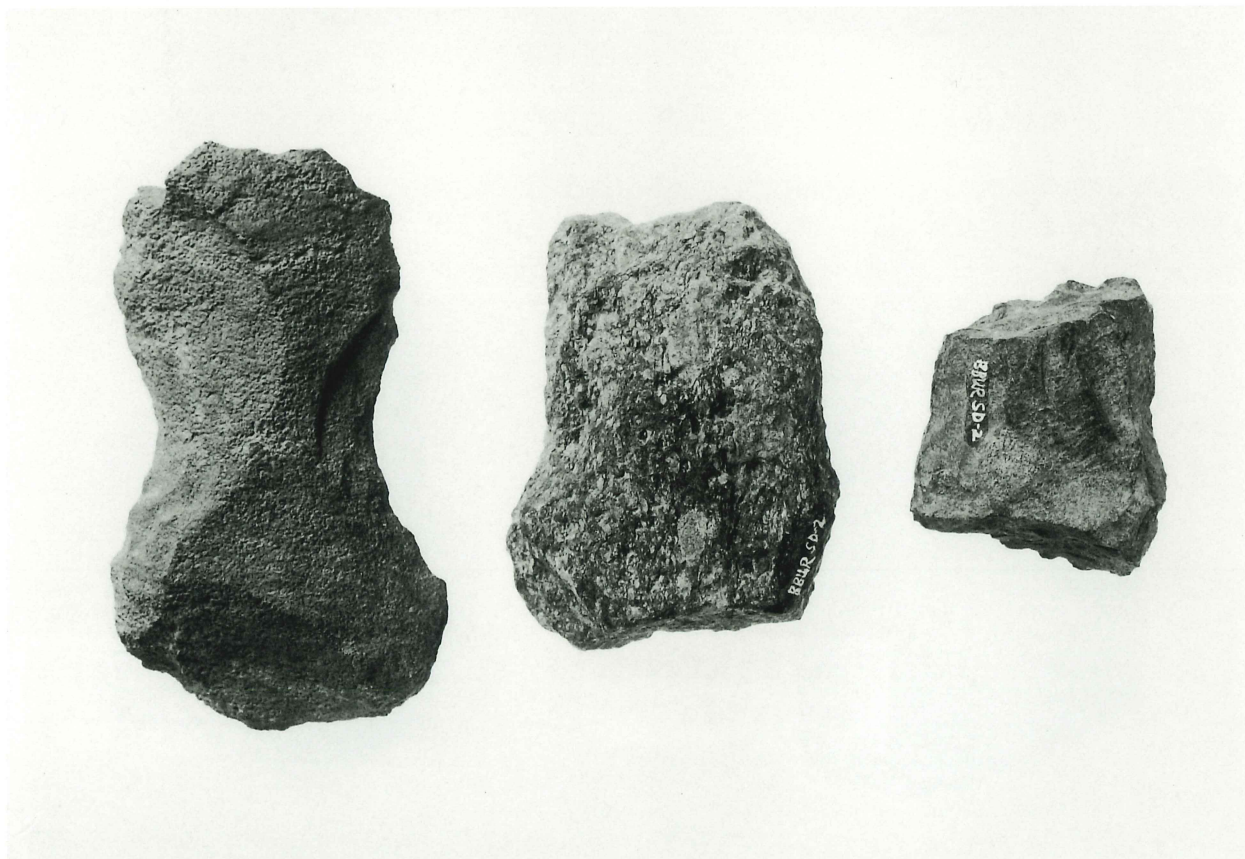
单独出土繩文土器（第5图1）



遺構外出土繩文土器(1)（第6图）



遺構外出土繩文土器(2) (第7図)



遺構外出土石器 (第7図64・65・66)



第1号住居跡（第9图1）



第1号住居跡（第9图2）



正面



側面

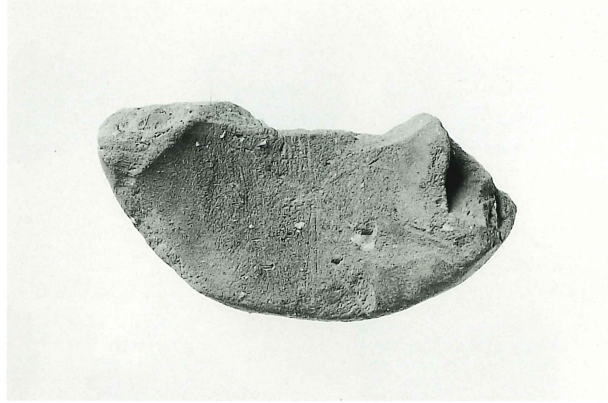


俯瞰



内面

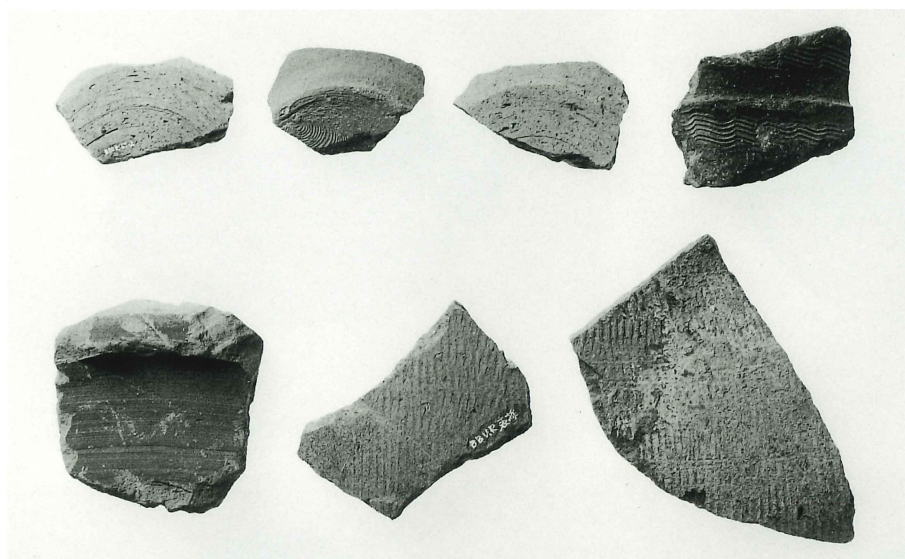
第1号溝出土瓦堂（第17图1）



第2号井戸出土軒丸瓦 (第22图2)



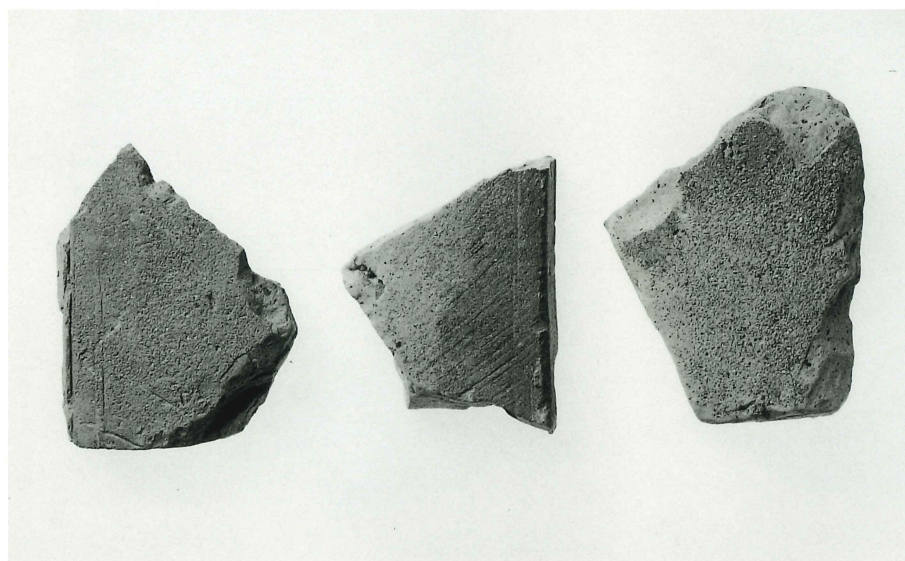
第2号井戸出土板石塔婆 (第21图1)



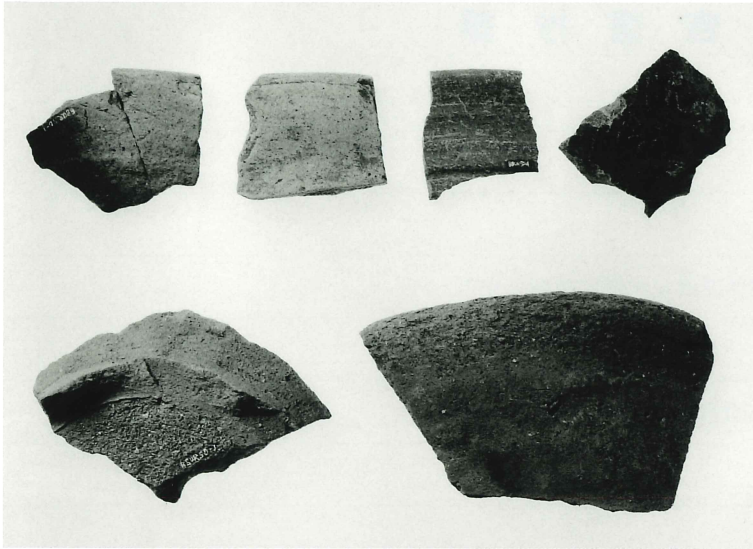
須恵器（第10図2、第18図2～5、第31図1・2）



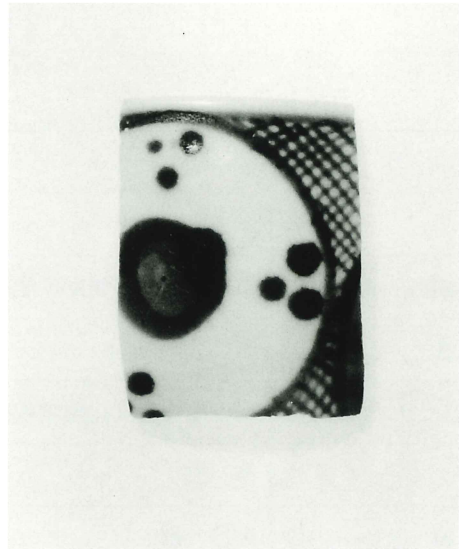
平瓦凹面（第17図4、第18図6、第31図3）



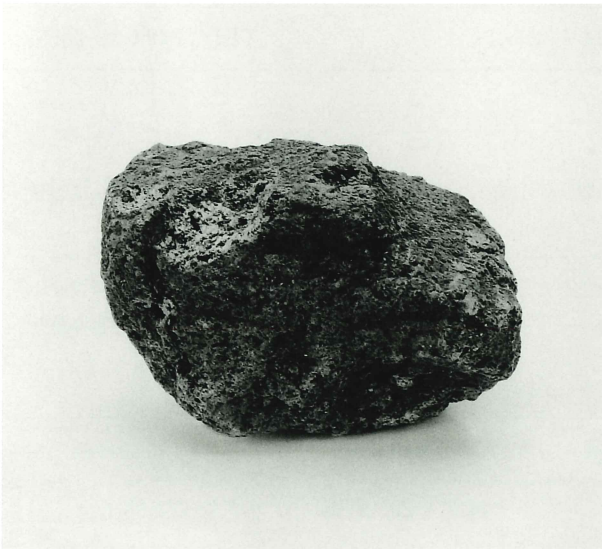
平瓦凸面（同上）



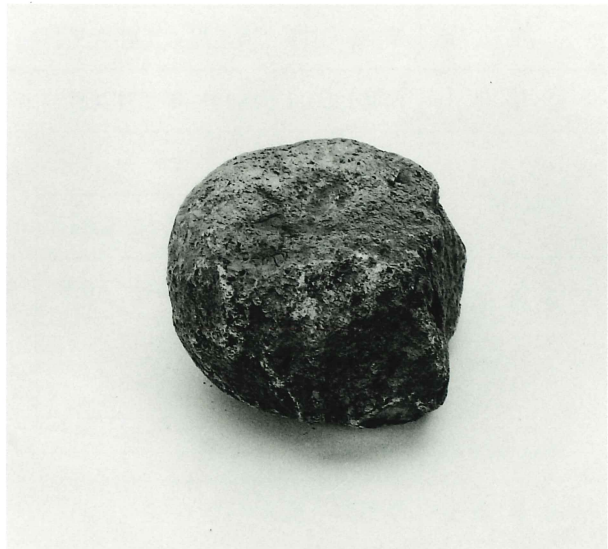
中世陶器 (第17図 2・3、第18図 7・8・10、第22図 5)



第5号溝出土磁器 (第18図11)



第1号溝出土加工石材 (第17図 5)



第2号井戸出土加工石材 (第22図 3)



第3号井戸出土加工石材 (第22図 6)



溝・グリッド出土遺物 (第19図12~16、第31図 6)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ばぼうらいせき							
書名	馬場裏遺跡							
副書名	県立行田進修館高等学校関係埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	I							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第230集							
編著者名	大谷 徹							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台 4-4-1					TEL 0493-39-3955		
発行年月日	西暦1999 (平成11) 年 2 月 26 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ばばうらいせき 馬場裏遺跡	さいたまけんぎょうだし 埼玉県行田市 ながのぼんちほか 長野1320番地他	11206	029	36°8'52"	139°28'11"	19970801 ～ 19971031	1,900	学校建設に伴う事前調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
馬場裏遺跡	集落跡	縄文時代			縄文土器、石器	瓦堂屋蓋部出土		
		奈良・平安時代	住居跡	5軒	土師器、須恵器、瓦堂			
		中世・近世	火葬跡 溝 井戸 土壇 ピット	2基 14条 6基 12基 249基	陶磁器、軒丸瓦、平瓦、砥石、板石塔婆、石製品、鉄製品			

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第230集

行田市

馬場裏遺跡

県立行田進修館高等学校関係埋蔵文化財発掘調査報告

— I —

平成11年 2月22日 印刷

平成11年 2月26日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4-4-1

電話 0493 (39) 3955

印刷／朝日印刷工業株式会社